令和７年度

履修要覧

SHITENNOJI UNIVERSITY 2025

INTERNATIONAL BUDDHIST UNIVERSITY

四天王寺大学短期大学部

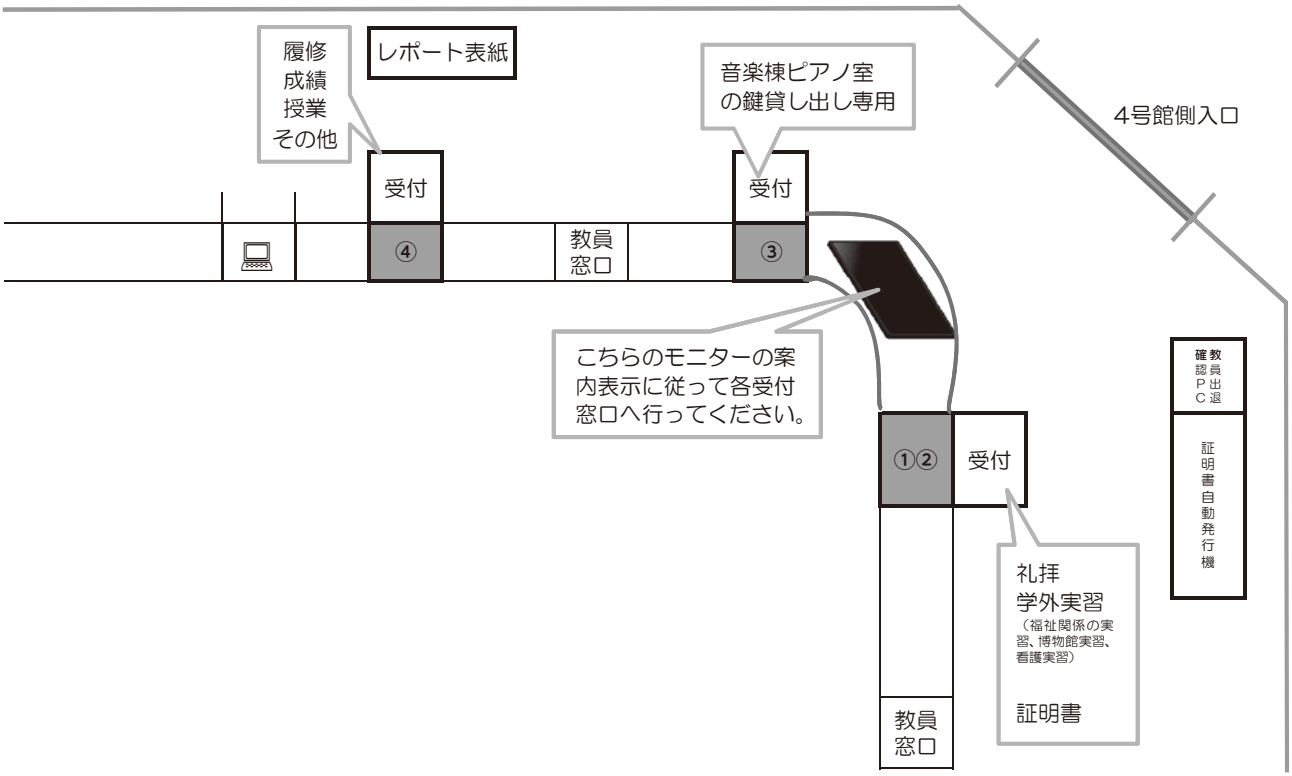
教務課窓口受付について

教務課受付時間：9：00～17：30
（月曜日～土曜日 祝日除く）

受付時間外の問い合わせには対応できません。
※11：35～12：25は当番者のみでの対応になります。

教務課受付対応窓口について

教務課へ用件がある場合は、教務課入口（4号館側）のモニターの案内表示に従い、担当受付窓口で問い合わせてください。受付窓口以外では対応できませんので、順番に並んでください。
※窓口の位置は変更することがありますので、モニターで必ず確認して下さい。



[教職教育推進センター]（4号館地下1階）

受付内容

① 学外実習（教育実習、介護等体験、臨床実習、保育実習等）
② 教員採用試験及び対策講座等に関すること。
③ 学校インターンシップ、学校ボランティア等に関すること。

よくある質問

卒業や教員免許に必要な単位、科目がわからない場合は、履修要覧の以下のページで調べてください。
また、履修登録についてのＱ＆Ａを時間割表に掲載していますので時間割作成時に活用してください。

卒業するには何単位必要？ ……P.31

→各学科を卒業するには何単位必要かが書いてあります。

卒業に必要な科目は？

→各学科で卒業に必要な科目が書いてあります。必修・選択必修・選択科目があります。

重要！！
卒業には科目群ごとに決められた単位数を修得する必要があります。

- 教養教育科目※1 → （学科により必要単位数が異なります）……P.55
- 基礎教育科目※2 → （全学生必修です）……P.57
- 共通教育科目※2 → （学科により必要単位が異なります）……P.61 ～
- 専門教育科目→
  - 保育科……P.68 ～
  - ライフデザイン学科……P.75 ～

※１　令和７年度入学生
※２　令和６年度以前入学生

短期大学部で取得可能な教員免許・資格は？ ……P.83

→短期大学部で取得可能な教員免許・資格一覧を確認してください。

教員免許・資格に必要な科目は？

→各教員免許・資格の種類により、必要な科目が書いてあります。履修登録前に必ず自分の希望する教員免許・資格に必要な科目を調べてください。

保育科	幼稚園教諭二種免許状	P.84 ～
保育科	保育士資格	P.89 ～
保育科	レクリエーション・インストラクター	P.99
保育科	認定ベビーシッター	P.100
全学科	社会福祉主事任用資格	P.96
ライフデザイン学科	ビジネス実務士	P.101
ライフデザイン学科	上級秘書士（メディカル秘書）	P.98

令和７年度（2025 年）大学・短大 学年暦（令和７年４月～令和８年３月）

令和７年度 在学生　健康診断・オリエンテーション日程	
３月26日（水）	健康診断 （在学生：教育学部・経営学部） オリエンテーション （在学生：教育学部・経営学部・看護学部）
３月27日（木）	健康診断 （在学生：人文社会学部・文学部・社会学部・看護学部・短期大学部） オリエンテーション （在学生：人文社会学部・文学部・社会学部・短期大学部）
夏　学　期	
４月 １日（火）	オリエンテーション（新入生） 夏学期履修登録期間 （4/1 ～ 4/8）
４月 ２日（水）	入学式
４月 ３日（木）	オリエンテーション（新入生）
４月 ４日（金）	オリエンテーション（新入生） 健康診断（新入生）
４月 ５日（土）	オリエンテーション（新入生） ※予備日 健康診断（予備日） （新入生・編入生）
４月 ７日（月）	夏学期開講
４月15日（火）～４月18日（金）	夏学期履修訂正期間
４月19日（土）	終日休講・新入生授戒会
４月29日（火）	（祝日）火曜日授業
５月 ３日（土）	（祝日）土曜日授業
６月 ４日（水）	土曜日授業
６月22日（日）	水無月祭
７月16日（水）	夏学期終講
７月17日（木）～７月24日（木）	定期試験期間（予備日含む）
７月21日（月）	（祝日）月曜日授業
７月28日（月）～７月31日（木）	夏学期集中講義
７月30日（水）	成績公開
８月 １日（金）	夏学期再試験申込み
８月 ７日（木）～８月 ９日（土）	夏学期追・再試験
９月12日（金）	夏学期学位授与式（9月卒業生）
冬　学　期	
令和７年	
９月12日（金）	冬学期入学式（９月入学生）
９月17日（水） ９月18日（木）	オリエンテーション
９月17日（水）～９月22日（月）	冬学期履修登録期間 （9/17 ～ 9/22） 冬学期開講（9/20）
10月 １日（水）～10月 ３日（金）	冬学期履修訂正期間 （10/1 ～ 10/3）
10月13日（月）	（祝日）月曜日授業
10月31日（金）	大学祭準備日（終日休講）
11月 １日（土）～11月 ３日（月）	大学祭（終日休講）
11月 ４日（火）	大学祭後片付け（終日休講）
11月 ５日（水）	火曜日授業
11月24日（月）	（振替休日）月曜日授業
12月27日（土）	12月授業終了
令和８年	
１月 ５日（月）	１月授業開始
１月 ８日（木） １月 ９日（金）	卒業研究提出
１月 ８日（木）	補講日
１月 ９日（金）	冬学期終講
１月10日（土）～１月20日（火）	定期試験期間（予備日含む）
１月26日（月）	成績公開
１月30日（金）	冬学期再試験申込み
２月 ５日（木）～２月 ７日（土）	冬学期追・再試験
２月22日（日）	学園創立記念日（事務局休業）
３月13日（金）	学位授与式

＊学年暦は、「大学学則」第３章、「短期大学部学則」第３章の規程に基づくものである。
＊学年暦の変更は、その都度掲示などをする。
＊毎週土曜日および終日休講の日は、事前に連絡の上、補講を実施する場合がある。
＊実習は平常の授業以外の日程で行う場合がある。
＊集中講義は上記以外の日程で行う場合がある。

行事等

学生は本学の行事等に参加しなければなりません。行事等に参加する時には、本学のスーツ着用基準に沿った服装を端正に着用し学生証と念珠、『聖典聖歌集』を携行しなければなりません。

・教養教育科目・基礎教育科目「和の精神」の授業規律について

礼儀を正して静穏な環境で自らを省み、自他を尊重し、思慮深い安定した人格を養うことが「和の精神」の授業の目的です。**授業規律については履修要覧に記載しています。**

○必ず参加しなければならない行事等

授戒会

入学時の学生全員に対して行う。四天王寺管長が戒師となって戒を授け、戒を受ける者は戒を受けてこれを守ることを誓う。それは善行の誓いであり、人としてよりよい生き方を求めようとする誓いである。

礼拝（本学大講堂にて実施）

礼拝とは、1 年次生に対して、毎週木曜日 2 時限目に夏学期「和の精神Ⅰ」、冬学期「和の精神Ⅱ」の授業で行うものであり、「和の精神Ⅰ」では献灯に始まり、読経、止観（瞑想）、聞法（学習）、聖歌斉唱を行う。「和の精神Ⅱ」では止観に続いて写経を行い聞法に代える。

○自由参加の行事（四天王寺本坊で行われる行事）

釈尊降誕会	4 月 8 日	お釈迦様のお生まれになった日に行われる法要（花まつり）
釈尊成道会	12 月 8 日	お釈迦様が悟りを開かれ、仏陀になられた日に行われる法要
釈尊涅槃会	2 月 15 日	お釈迦様が入滅された日に行われる法要
聖徳太子御聖忌	2 月 22 日	聖徳太子の祥月命日に行われる法要（祥月：故人が亡くなってから何年目かにめぐって来た当月当日）
聖徳太子讃仰会	毎月 22 日	聖徳太子の月命日に行われる太子讃仰の法要

○自由参加の行事（四天王寺大学の学内で行われる行事）

聖徳太子讃仰座禅会	毎月 1 回	聖徳太子の月命日前後の木曜日に行う座禅会

は じ め に

この『履修要覧』には、四天王寺大学短期大学部で学生生活を送る皆さんが、本学での学修を行うにあたって必要な知識と知っておかなければならない事柄や規則について、詳しい説明がなされていますので大いに活用してください。

一人ひとりの夢や希望が異なるように、皆さんの学修の目標や関心もそれぞれ異なっています。自分が設定した目標に向かってどのように授業を組み立てていくのか、この『履修要覧』を熟読し、その内容を十分に理解し、「時間割表」も見ながら、この 1 年間の学修計画をしっかり立ててください。その積み重ねが、有意義な学生生活を送るために必要不可欠なことです。ここに記載されている事項についての疑問や不明な点があれば、必ず自分で直接教務課に来て確認するようにしてください。また、この『履修要覧』は、必要に応じてすぐに見ることができるように、常に身近に置くようにするとよいでしょう。

皆さんの眼前に広がっている学問の大海原において、コンパス（羅針盤）の役割を果たすのが『履修要覧』なのです。この『履修要覧』を活用し、大いなる希望を胸に抱いて学問の航海に旅立ってください。
Bon voyage !

目　次

よくある質問 …… 1
学年暦 …… 2
行事等 …… 3
はじめに …… 5

教育理念　9

本学の教育方針 …… 10
教員養成の目標及びめざす教員像 …… 14

事務手続き　15

学籍番号と各学科の略称 …… 16
IBU.net …… 17
大学からの連絡と教務課への問い合わせ …… 18
教員との連絡方法 …… 19
休講 …… 20
補講 …… 21
ピアノ室の利用について …… 21
転学科について …… 22

授業・履修　23

学位 …… 24
単位のしくみ …… 25
セメスター制について …… 26
授業 …… 26
シラバス（授業計画） …… 28
卒業に必要な単位 …… 30
履修 …… 31
単位認定 …… 35

試験・成績　39

成績評価の方法 …… 40
定期試験 …… 41
追試験 …… 43
再試験 …… 44

成績と GPA……46

教育課程（授業科目一覧・単位数など） 49

各種免許・資格 77

本学で取得可能な免許・資格等一覧……83
幼稚園教諭二種免許状の課程（保育科）……84
保育士資格（保育科）……89
社会福祉主事任用資格（保育科・ライフデザイン学科）……96
上級秘書士（メディカル秘書）（ライフデザイン学科）……98
レクリエーション・インストラクター（保育科）……99
認定ベビーシッター（保育科）……100
ビジネス実務士（ライフデザイン学科）……101

諸規程 102

教育理念

本学の教育方針

教員養成の目標及びめざす教員像

本学の教育方針

●「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）

「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成

本学は、大学生活全体を通して、「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成を図ります。
このような人間形成を目指す本学のディプロマ・ポリシーは次のとおりです。

自己分析・自己研鑽の力

○自らの理念や行動を相対化し、省察することができる。
○自己を高めるために生涯にわたり、学び続けることができる。

豊かな人間性 ～慈愛の心・利他の精神～

○多様な立場、考え方の存在を認める（受容する）ことができる。
○他者に対して思いやりを持ち、寛容な態度で接することができる。
○他者の喜びや躓きを自己のものとして共感することができる。

社会（組織）で活躍できる力 ～専門性を基礎として～

○社会（組織）の現状について認識できる。
○社会（組織）の一員としての自己を理解できる。
○社会（組織）に貢献する強い意欲を持ち、行動することができる。
○組織の新たな課題解決や改革に仲間とともに取り組み、実現することができる。

●「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

令和７年度入学生

ディプロマ・ポリシーに掲げる「『和の精神』を持ち、実社会で活躍できる人間」の育成を目的として、学科共通に教養教育科目を、そして、各学科において専門教育科目を体系的に編成する。

〈教育課程の編成・教育内容〉

【教養教育科目】

「教養教育科目」の中で「和の精神Ⅰ」、「和の精神Ⅱ」、「仏教概説」、「現代社会と人権」は、慈愛の心と利他の精神をもつ豊かな人間性を育てる基礎を形成することを目的とする。この４科目は、短期大学部での学修や現代社会で求められる総合的な知識・技能を修得する他の「教養教育科目」、そして各学科における専門分野を修得する「専門教育科目」を学ぶ前提となる科目である。

まず、「和の精神Ⅰ」では瞑想、「和の精神Ⅱ」では写経と瞑想という実践行を行い、仏教に関する知識と考え方を学び、思慮のある安定した人格の形成を図る。

「仏教概説」では「和の精神Ⅰ」、「和の精神Ⅱ」の意義をより深く理解し、仏教に関する基礎的な知識を学び、仏教的な情操を体得する。

「現代社会と人権」では、人間存在のかけがえのなさを知り、現代社会における多様な人々との共生の重要さを学ぶ。

「教養教育科目」は、学問の対象や性格によって、「こころと思想」、「学びの基礎」、「社会と文化」、「情報と自然科学」、「健康と福祉」、「言語」、「キャリア教育」の 7 つの科目群に分類される。

○「こころと思想」は、建学の精神である聖徳太子の仏教精神を深めるとともに、心の問題や思想について学び、自らの生き方を振り返る一助とする。

○「学びの基礎」は、大学での学修に必要なスキルを育成するとともに、専門的な学びへのスムーズな移行を図る。

○「社会と文化」は、法や政治という社会システム等について学ぶことで、社会の一員としての意識を高める。

○「情報と自然科学」は ICT 活用能力等を高めるとともに、自然科学の観点から生命や社会について考える素地を養成する。

○「健康と福祉」は、心身の健康に対する意識を高めるとともに利他の精神に基づく福祉の考えを学ぶ。

○「英語」は、コミュニケーション技能に加えて、異文化理解や多文化共生等のグローバル社会に対応できる資質・能力を養成する。

○「キャリア教育」は、入学から卒業までを見通したキャリアデザインを構想するとともに、卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を身につける。

【専門教育科目】

「専門教育科目」は、各学科における学識を深め、専門性を高めるとともに、これを通して、社会（組織）で活躍できる力の修得を目指す。

具体的には、各学科のカリキュラム・ポリシーで定める。

〈教育方法〉

探究型学修やアクティブ・ラーニング、ICT 等を積極的に取り入れた授業を実施する。単なる知識・技能の修得に終わることなく、主体的に授業に参加して自己内対話を深めるとともに、共に対話する中で、学びの共有化と深化を目指す。

授業は、対面授業を中心に実施するが、科目の特性や内容、カリキュラム上の必要性等に応じて遠隔授業を実施し、多様な学びのニーズに応える。

〈学修成果の評価方法〉

学修成果の評価にあたっては、学修内容の修得としての「学び」と「『和の精神』を持ち、実社会で活躍できる人間」への「育ち」という 2 つの観点から行う。2 年間で何が身についたかを可視化し、短期大学部での学びと育ちを自他ともに実感できるものとする。

令和 6 年度入学生

ディプロマ・ポリシーに掲げる「『和の精神』を持ち、実社会で活躍できる人間」の育成を目的として、学科共通に基礎教育科目、共通教育科目を、そして、各学科において専門教育科目を体系的に編成します。

「基礎教育科目」は、短期大学部での学修や現代社会で求められる総合的な知識・技能を修得する「共通教育科目」、そして各学科における専門分野を修得する「専門教育科目」を学ぶ前提となる科目です。この「基

礎教育科目」では、「和の精神」についての学びを深め、調和のある社会で活躍できる人格形成を行います。

そして、各授業の教育内容を講義、演習、実験・実習等の授業形態により効果的な教育方法を用いることで修得することを目指します。

1～2年次の担任教員と所定の時期に学修した成果を客観的に評価すると共に、学修者自身にとっても自覚できることをもとにして学修者自身の目標を明確にし、学びの意欲につなげます。

【基礎教育科目】

「基礎教育科目」は4つの科目から構成されている。

そのうち、「和の精神Ⅰ」では瞑想、「和の精神Ⅱ」では写経と瞑想といった実践を行い、それを通して仏教に関する知識と考え方を学び、思慮のある安定した人格の形成を図る。

「仏教概説」では「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」の意義をより深く理解し、仏教に関する基礎的な知識を学び、仏教的な情操の体得を図る。

「現代社会と人権」では、人間存在のかけがえのなさを知り、現代社会における多様な人々との共生の重要さを学ぶ。

本科目群の学びを通して慈愛の心と利他の精神をもつ豊かな人間性を育てていく。

【共通教育科目】

「共通教育科目」は学問の対象や性格によって、「学びの基礎」「こころと思想」「社会と文化」「情報と自然科学」「健康と福祉」「英語」「キャリア教育」の7つの科目群に分類される。

「学びの基礎」は、短期大学部での学びや生活に必要なスキルを育成するとともに、専門的な学びへのなめらかな導入を図る。

「こころと思想」は建学の精神である聖徳太子の仏教精神をさらに深めるとともに、心の問題や思想について学び、自らの生き方を振り返る一助とする。

「社会と文化」は「こころと思想」の学びをもとに法や政治という社会システム等について学ぶことで社会の一員としての意識を高める。

「情報と自然科学」はICT活用能力を高めるとともに、自然科学の観点から生命や社会について考える素地を養成する。

「健康と福祉」は心身の健康に対する意識を高めるとともに利他の精神に基づく福祉の考えを学ぶ。

「英語」は1年生時に受講し、基礎から応用まで段階を踏まえてコミュニケーション技能を身につけ、高める。

「キャリア教育」は卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を段階的に身につける。さらに、入学から卒業までを見通したキャリアデザインを構想するための支援をおこなう。

【専門教育科目】

「専門教育科目」は学科ごとに、その専門性を高めるとともに社会人として必要となる資格や免許状の取得や知識・技能を身につけ、社会（組織）で活躍できる力の修得を目指します。

〈教育方法〉

(1) これまでの高校までの教育の中で行われてきた「主体的・対話的で深い学び」をさらに深化させるために、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を中心として実施する。

単なる知識・技能の伝達に終わることなく、主体的に授業に参加し、自己内対話を深めるとともに、共

に対話する中で学びの共有化と深化を目指していく。

⑵　世界をオープンな場と考え、異文化であっても人間としての共通の原理・原則に従って思考し、行動できる能力をグローバル化に対応する能力と捉える。これにより、単なる語学の修得だけではなく、ICTの活用を含めたコミュニケーション能力と、思考のツールとしての活用能力を身につけていく。

〈学修成果の評価方法〉

教育評価にあたっては、学修内容の修得としての「学び」と「『和の精神』を持ち、実社会で活躍できる人間」への「育ち」という 2 つの観点から行う。何が身についたかを可視化できることを目指し、2 年間の学びと育ちを自他ともに実感できることを目指す。

⑴　最終的に試験やレポートによって直接評価するだけではなく、学びの途中の評価として、ルーブリックによるパフォーマンス評価や真正の評価等を実施する。
これは、教員と学生の双方がルーブリックの作成と評価を通じて、目標と評価の一体化を目指したものである。このような評価を取り入れることで学びと育ちの過程を学生自身が実感でき、主体性の育成にもつながることになる。

⑵　学修ポートフォリオを用いて、個々の 2 年間の学修成果を蓄積して可視化し、それを担任教員・担当教員等とともに省察するポートフォリオ評価等を取り入れる。省察の過程を通して、自己研鑽の力を身につけながら、青年期の課題である『自分づくり』を行うことを目指す。

⑶　入学時に PROG テスト等を実施し、その後にも実施することで短期大学部 2 年間で継続的に学修の成果を可視化し、客観的な自己評価を行っていく。このことにより、自身が目指す目標を明確にし、意欲を高めることにつなげる。

●「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針を踏まえ、求める能力やその評価方法を学力の３要素等と関連付けて明示し、多面的・総合的に評価します。具体的には、次のような人物を求めています。

⑴　豊かな人間性（慈愛の心・利他の精神）を身につけ、本学で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つことができること　〔求める要素：関心・意欲・態度〕

⑵　本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき基礎学力を有し、思考を深めて他者に表現できること　〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

⑶　多様な文化・価値観を理解し、自ら課題に対して仲間とともに積極的に取り組み、自己研鑽に努めることができること　〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

●教育研究上の目的

〈保育科〉

保育科は、聖徳太子の仏教精神をもとにした仏教保育の理念と方法を体得し、人間性豊かで慈愛に満ち、受容性と共感性に富む、保育実践力及び社会援助技術の基本を身につけた保育者養成を目的とする。

〈ライフデザイン学科〉

ライフデザイン学科は、聖徳太子の仏教精神をもとに、豊かな人格形成・修養に努め、生活全般からビジネスにいたるまでの幅広い教養と実務的な専門性を備えた、社会に貢献できる人材養成を目的とする。

教員養成の目標及びめざす教員像

●教員養成に対する理念・目標等

本学は聖徳太子が敬田院を設立された精神、すなわち宗教的情操教育によって人格の陶冶を図り、広範にして深い知識と高い技術・技能を教授することによって人格の形成に資することを目的として、設置以来社会に有為な人材の育成に努めている。従って、教員養成に対する理念は、この建学の精神に基づいて、地域社会の学術・教育・文化・福祉などの振興と発展に寄与することである。

今後ますます求められる国際社会における基本的資質能力と国際感覚を養い、近年の急激に変化発展する社会に適応する知識と技術力を修得し、教員として直面する新たな事態に対処できる能力ある教員養成を目指す。

●めざす教師像

〈保育科〉

[幼稚園教諭 2 種免許状]

少子高齢化や女性の雇用促進などの社会環境の変化に伴い、集団保育施設の役割が急速に高まっています。このような社会的背景の中で、保育科では幼稚園教諭 2 種免許状と共に保育士の資格の取得が可能であり、仏教精神を基本とした幼稚園教諭の養成を行い、以下に示すような保育者の養成を目指します。

1. 受容性と共感性を備え、乳幼児の成長発達への援助ができる保育者
2. 専門的な観点から保護者の育児力に対して支援できる保育者
3. 5 領域にわたる実践技能を備えた保育者

以上のような幼稚園教諭を育成するために、保育科では全学共通の「教養教育科目」※1「基礎教育科目」※2「共通教育科目」※2 で学んだことを基礎にして、「専門教育科目」において多様な科目を学ぶことになります。「保育者論」「教育原理（制度的事項等を含む）」「幼児教育課程総論」などの教職に関する科目により保育者としての知見や学識を身につけ、6 つの保育内容により実践的な技能を修得します。また、教科に関する「音楽」、「図画工作」、「小児体育」などの科目により表現や健康に関する専門的知識を身につけます。

※ 1　令和 7 年度入学生
※ 2　令和 6 年度入学生

事務手続き

学籍番号と各学科の略称

IBU.net
── 学内 WEB システムについて

大学からの連絡と教務課への問い合わせ

教員との連絡方法

休講

補講

ピアノ室の利用について

転学科について

学籍番号と各学科・専攻の略称

新入生には、入学時に学籍番号が与えられます。学籍番号とは、学生証に印字されている７桁の番号です。通常、卒業するまで変更することはありません。

学内の事務処理は、全て学籍番号によって行われます。試験の答案用紙やレポート提出の際、その他さまざまな手続きにおいて必要となります。記入する際には正確に記入してください。

●学籍番号のしくみ

学籍番号例　6（①）　69（②）　2（③）　001（④）

桁（左から）	内　容
① 1 桁目	短大　6- 短期大学部
② 2 桁目～ 3 桁目	期生
③ 4 桁目	学科 2-　保育科 7-　ライフデザイン学科
④ 5 桁目～ 7 桁目	個人番号 一般学生　001 ～ 復籍学生　401 ～ 再入学生　501 ～ 転学部生　801 ～

●各学科の略称

各学科は、便宜上、略称で示されることがあります。各学科の略称は下のとおりです。

学　科	略　称
保育科	保育
ライフデザイン学科	ライフ

IBU.net

● IBU.net とは

IBU.net は、インターネットを通じて、履修登録を行ったり、自分の成績や授業の出欠席を確認したり、授業をはじめ大学のさまざまな情報が掲示される WEB システムです。また、授業課題の提示や提出もここで行う場合があります。毎日ログインし、最新の情報を確認してください。

【IBU.net の主な機能】

No.	機　能		説　　明	問い合わせ先
①	My DATA	(個人時間割)	自分の時間割が閲覧できます。希望した科目が履修登録できているか確認してください。	教務課
		(個人成績)	入学してからの自分の成績が閲覧できます。	
②	学修支援	(シラバス照会)	開講科目のシラバス（授業計画や評価方法など）が検索・閲覧できます。	教務課
		(授業出欠状況)	履修科目の出席状況を確認することができます。(科目により入力されていない場合もあります)	科目担当者(教員)
③	履修登録		履修する科目の登録ができます。卒業年次生は教員免許等の免許・資格の登録も必要です。履修登録期間のみメニューが表示されます。	教務課
④	授業情報		当日と翌日の履修科目の情報が表示されます。休講の場合は、休講のマークが表示されます。	教務課
⑤	お知らせ情報一覧		大学の各部署や教員からのお知らせが掲示されます。	各部署・教員
⑥	休講・補講情報		履修登録されている授業の、休講・補講情報です。	教務課
⑦	課題提出		授業で出される課題です。毎日確認してください。(注)	科目担当者(教員)
⑧	授業資料		毎回の授業で使用する資料です。　(注)	
⑨	Q & A		授業についての質問はここで行ってください。　(注)	

＊①②③④⑦⑧⑨：IBU.net にログイン⇒「授業支援メニュー」

(注) 提出した課題、教員からの授業資料や Q&A は、年度を越えると閲覧できなくなる為必ず各自で保存してください。

●メール設定について

IBU.net に自分のメールアドレスを設定すると、大学からのお知らせや授業に関する情報（休講・教室変更など）や科目担当教員からのお知らせ等がそのメールアドレスに転送されます。※添付ファイルは IBU.net に直接ログインしないと開くことができません。

IBU.net での転送メールアドレス設定、その他 IBU.net の詳しい使い方については、IBU.net のマニュアルに掲載されている『情報環境利用の手引き』を参照してください。

メール設定に関する注意

1） IBU.net を通して情報発信されるものの中には、データ（word 文書や excel ファイル・PDF ファイルなど）が添付されている場合があります。転送されてきたメールから添付されているデータは参照できませんので、必ずパソコンで IBU.net にログインして、確認してください。
2） IBU.net から転送されてきたメールに直接返信しても、差出人へメールは届きません。
3） 全ての情報が IBU.net を通してメールされるわけではありません。必ずパソコンでログインした IBU.net 画面を確認してください。

※ IBU.net にログインする ID とパスワードは入学時に配付します。わからなくなったら高等教育推進センターに問い合わせてください。

●保護者の IBU.net 閲覧

保護者の方も、IBU.net を通じて学生の時間割表や成績表、出欠状況を閲覧することができます。閲覧方法や ID とパスワードは保護者宛に 5 月頃に郵送しています。

大学からの連絡と教務課への問い合わせ

●本学からの連絡

本学からの連絡は、IBU.net を通じて行います。

例えば、教室変更、休講、授業に関する注意事項など、学生生活を送る上で、大切な情報ばかりです。大学へ登校する際には、必ず IBU.net を確認してください。

お知らせした情報は、皆さんが知っているものとして取り扱いますので、注意してください。

●教務課窓口での問い合わせ

授業の履修登録や時間割や教室の配当、成績の管理などを行っているのが教務課です。これらのことで分からないことがあれば、窓口へお越しください。

【窓口受付時間】：月曜日～土曜日（祝日除く）　9：00 ～ 17：30
11：35 ～ 12：25 は当番者のみでの対応になります。

※授業、履修、試験、レポート、成績に関することなどの電話での問い合わせには、間違いが生じやすく、個人が特定できないといった問題もありますので、一切応じません。

●教務課事務取扱内容

履修・授業・休講・補講
試験・レポート
単位・成績
和の精神・授戒会
免許・資格に関すること
各種証明書

※教育実習・保育実習等の学外実習については、教職教育推進センター（4 号館地下 1 階）に問い合わせてください。

●提出物等の期限について

各種手続き（履修登録、レポート提出、追・再試験、その他資格の取得など）の期限は必ず守ってください。定められた期間内に手続きを完了しない場合、単位の修得や資格取得ができなくなるばかりでなく、卒業できなくなる場合もあります。

教員との連絡方法

本学の教員と連絡をとりたい場合は、次のような方法があります。

●研究室を訪ねる

専任教員には研究室があり、授業時間以外は研究室に在室していることが多いので、直接研究室を訪ねてもよいでしょう。研究室の場所については、IBU.net に掲載されている「研究室一覧 / オフィスアワー（学内のみ利用可）」を確認してください。

非常勤講師には、研究室はありません。担当の授業がない曜日には原則として本学に出講していません。授業のある曜日に講師室（4 号館 1 階）を訪ねてください。

●オフィスアワーを利用する

専任教員は「オフィスアワー」を設定しています。オフィスアワーは学生の皆さんが学修や進路についての疑問や質問、学生生活についての相談等、個別に尋ねることができるように設けられた時間です。それぞれの教員のオフィスアワーについては、IBU.net に掲載されている「研究室一覧 / オフィスアワー（学内のみ利用可）」で確認してください。非常勤講師については、オフィスアワーはとくに設けていませんので、質問等があれば、授業終了後等に行ってください。

●メールを送る

教員を直接訪ねることができない場合は、メールを送ってみてもよいでしょう。専任教員・非常勤講師ともに四天王寺大学用の G-mail アドレスを持っています。G-mail アドレスは、IBU.net の「マニュアル」もしくは学内ホームページに掲載されている「教職員メールアドレス検索」で確認してください。また IBU.net の授業ページの Q&A でも質問できます。ただし、メールを利用するかどうかは各教員によって異なり、返信がない可能性がありますので、極力直接教員を訪ねるようにしてください。

●授業のない期間に連絡をとりたい場合

授業のない期間（定期試験期間や、夏期・冬期休業期間など）には、教員が必ず学内にいるとは限りません。また、非常勤講師については、原則として大学には出講していません。したがって、教員への連絡・相談はできる限り授業期間内にしておいてください。

休講

授業は、短期大学または担当教員のやむを得ない事情（学会出張、体調不良等）によって休講になることがあります。

休講はできる限り早く IBU.net で連絡しますが、やむを得ず、当日連絡することもありますので、注意してください。

休講の連絡がなく、授業開始後 30 分を過ぎても担当教員が来ない場合は、休講扱いとします。教務課に申し出て指示を受けてください。

●臨時休講について

【1】臨時休講の条件

次の⑴～⑸のいずれかの状況が生じた場合は、臨時休講となります。（定期試験期間中も含む）

⑴　大阪府の「南河内」区域※のいずれかの市町村に特別警報（暴風・大雨・暴風雪・大雪）が発表された場合

⑵　大阪府の「南河内」区域※のいずれかの市町村に暴風警報が発表された場合

※「南河内」区域：富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村

⑶　近鉄南大阪線の「大阪阿部野橋」から「古市」の全区間が運行停止となった場合（一部運行停止、延着を除く）

⑷　大阪府のいずれかの市町村に大規模地震対策特別措置法に基づく警戒宣言が出された場合

⑸　学長もしくは教務部長が学生の安全確保の必要があると判断した場合

※⑸の場合、本学 HP 及び IBU.net でお知らせします。

ただし、施設の安全確認など判断に時間を要することがあり、即時に連絡できない場合があります。

【2】上記⑴～⑷の状況が発生・解除・継続された場合の授業の取り扱い

午前 5 時 59 分までに解除された場合	1 限より全授業実施

午前 6 時から 8 時 59 分の間に発生している場合	1・2 限休講

⬇

午前 6 時から 8 時 59 分までに解除された場合	3 限以降の授業実施
午前 9 時以降も継続している場合	終日休講

午前 9 時以降に発生した場合	発生した時点以降終日休講

注　意

- 授業がある場合の通学については、十分に注意し、各自で安全を確保してください。
- 各自、上記の条件を確認して判断してください。
- 臨時休講の有無について、個別での問い合わせはご遠慮ください。
- 大阪府以外又は大阪府の「南河内」区域以外から通学する学生について
  大学が臨時休講にならない状況において、在住地域に特別警報（暴風・大雨・暴風雪・大雪）、暴風警報が発表された場合、科目担当者が配慮することがあります。

補講

授業が休講となった場合、またはその他の理由により、平常の開講曜日時限以外で授業を行うことを補講といいます。

●授業期間中の補講

補講を行うことが決まり次第、授業内に教員から連絡又は IBU.net で連絡します。

●補講日に実施

年度・学期によって、補講日を設定している場合があります。補講日には平常授業を行わず、補講の連絡があった科目のみ補講が実施されます。補講日については学年暦で確認してください。
但し、補講日以外に実施される場合もあります。

ピアノ室の利用について

8 号館音楽棟ピアノ練習室を利用する際は、教務課に届け出が必要です。音楽棟は、授業や個人練習、部活動の場として多くの人が利用しますので、学生の皆さんが気持ちよく練習できるように、利用方法を守ってください。

【1】利用方法

①教務課で利用届を記入
②学生証を預け、鍵または使用許可証を受け取る
→
③ 1 時間練習
→
④鍵または使用許可証を教務課へ返却し、学生証を受け取る

【2】利用時間

	時　期	曜　日	時　間
①	授業期間中	月～金	9：00 ～ 18：30（受付は 17：30 まで）
②		土	9：00 ～ 17：00（受付は 16：00 まで）
③	授業期間外	月～金	9：00 ～ 17：30（受付は 16：00 まで）
④		土	9：00 ～ 17：00（受付は 15：30 まで）

1） 申し込みには、学生証が必要です。
2） 利用時間は 1 時間です。延長は教務課まで申し出てください。
※状況によって延長不可能な場合もあります。
3） 授業期間外（夏季および冬季休暇中その他等）の利用時間は 90 分の利用が可能です。
4） 授業での使用が優先のため、個人練習での使用ができない場合があります。

【3】設備および注意事項について

1） 備品等に故障・紛失破損などがあれば、すぐに教務課に申し出てください。
2） 盗難防止のため、鍵をかけずに貴重品等の荷物を練習室に置いたままにしないでください。
3） 電子ピアノ室での練習は、使用許可証はピアノの上に置いてください。練習を終了したときは、ヘッドホンは電子ピアノの横に必ずかけてください。
4） ピアノ室での飲食は厳禁です。

転学科について

在学中に他の学科に変わることを転学科といいます。ただし、全ての学科で募集が行われる訳ではありません。転学科には審査があり、合格すると翌年度４月から転学科先の３セメスターに所属することになります。出願には、「和の精神Ⅰ・Ⅱ」を修得していることが必要です。

毎年７月頃、「転学科募集要項」を公開しますので、希望する学生は必ず確認してください。また、質問等があれば、教務課で説明を行います。

授業・履修

- 学位
  ── 学位授与までの道のりについても説明しています。
- 単位のしくみ
  ── 単位の計算方法や単位と出席について説明しています。
- セメスター制について
- 授業
  ── 授業期間・授業時間・学生アンケートについて説明しています。
- シラバス（授業計画）
  ── シラバス（授業計画）について説明しています。
- 卒業に必要な単位
  ── 卒業に必要な単位数や条件を説明しています。
- 履修
  ── 授業科目の履修登録について説明しています。
- 単位認定
  ── 留学・取得した資格・他大学や短期大学の授業科目などが
  単位として認められる場合があります。

学　位

●学位の授与

本学の卒業者には、「短期大学士」の学位を授与します。学位に付記される専攻分野の名称は、以下のとおりです。

学　科	学位と専攻分野の名称
保育科	短期大学士（保育）
ライフデザイン学科	短期大学士（ライフデザイン）

●学位授与までの道のり

卒業し、短期大学士の学位を授与されるには、下記の条件を満たしている必要があります。

- 2年間（4セメスター）以上短期大学に在学していること
  ※休学した期間は在学期間に含まれません
- 卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）を修得していること

4セメスター以降の定期試験および追試験、再試験の結果、上記2つの条件を満たした学生は、教授会等の審議を経て卒業が決定します。

卒業が決定した学生は、郵送にて発表されます（卒業者発表）。

卒業する学生は、学位授与式へ出席し、学位記（卒業証書）を授与されることになります。

※卒業延期者には卒業延期通知を郵送します。

※卒業者発表は冬学期は3月上旬、夏学期は9月上旬に郵送にて行います。IBU.net や電話等での確認はできません。

※在学できるのは4年間8セメスターまでです。

単位のしくみ

●単位の計算方法

卒業するためには、各学科で定められた単位を修得しなければなりません。

単位は、授業科目を履修・受講し、定期試験やレポート提出、授業中の評価にて合格点（60 点以上）をとることによって修得できます。

履修登録	授業への出席	単位修得
単位修得にはまず履修登録が必要です。	毎回の授業に出席します。	定期試験・レポートや授業中の平常点等により評価される。合格点を取れば、単位修得となります。

【1】単位の計算基準

1 単位＝ 45 時間の学修（授業時間外の学修を含む）

文部科学省令として定められている大学設置基準では、授業の方法や授業時間外に必要な学修（予習・復習・学外実習）の時間数などによって単位数が以下の様に定められています。

- 講義科目および演習科目は 15 時間から 30 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- 実験、実習および実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

●単位と出席

本学の「四天王寺大学短期大学部履修規程」、「単位の修得及び試験に関する規程」では、「各科目について、その出席時数が当該科目の全授業数の 3 分の 2 に満たない者は、試験を受験しても単位は認定されない。」とされています。

授業の出席確認は、カードリーダー等様々な方法で行われますが、自分の履修している科目については、自分でも記録をとるなどして、しっかり出席回数を把握しておくようにしてください。また、授業は毎回出席し、積極的に授業に参加するようにしてください。

なお、科目ごとの評価方法に関しては、シラバス (授業計画) で確認してください。

セメスター制について

1 年間を 2 つの学期に分け、講義を各学期ごとに完結させ、履修・試験・成績評価を行います。本学では、夏学期・冬学期をそれぞれ 1 セメスターとして数えます。

1 年次		2 年次	
夏学期	冬学期	夏学期	冬学期
1 セメスター	2 セメスター	3 セメスター	4 セメスター

授　業

短期大学の授業は、高等学校までの授業とは大きく異なります。まず、短期大学では自分自身で「どの授業を受けるか」を選択し、履修登録を行います。同じ学科、同じ学年でも、選ぶ授業によって時間割は違ってきます。

●授業期間

大学では、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までを 1 年間の授業期間としており、夏学期と冬学期に分かれています。1 年の間には授業の無い期間がありますが、その期間に「集中講義」や各種講座などが行われます。時間割をよく確認してください。

●授業時間

短期大学の授業は 1 時限＝ 100 分です。本学では 1 時限から 5 時限まであり、それぞれの授業時間は次のとおりです。

時　限	授業時間
1 時限	9：00 ～ 10：40
2 時限	10：55 ～ 12：35
(昼休み)	12：35 ～ 13：25
3 時限	13：25 ～ 15：05
4 時限	15：20 ～ 17：00
5 時限	17：10 ～ 18：50

●学生アンケート

学生の皆さんに「学生アンケートによる授業評価」を実施しています。これは、授業について学生の皆さ

んの要望や建設的な意見に耳を傾け、教員と学生が一体となって、より充実した授業を目指すために行われます。

●オンデマンド授業

オンデマンド授業の進め方や注意事項については、授業内でアナウンスがありますので、確認してください。
不明な点がある場合は、IBU.net の授業Q＆A等を使って担当教員に確認してください。

●休講、補講および教室変更について

短期大学または担当教員のやむを得ない事情により、授業が休講となることがあります。休講となった回の授業については、後日補講を行うことがあります。
なお、自然災害等により臨時休講となる場合もあります。
また、授業が行われる教室が変更となることがあります。教室変更が行われた場合は、以降の授業すべて変更になることがありますので、教室変更の通知をよく確認してください。
休講・補講・教室変更については、事前または当日に、IBU.net にてお知らせしますので、確認してから授業へ出席してください。

●授業を欠席する場合

短期大学での学修においては、すべての授業に出席しなければなりません。単位修得には原則として 3 分の 2 以上の出席が必要としています。
※公認欠席について
忌引、就職活動、クラブ公式試合、学外実習等で欠席する場合、科目担当者の判断により、公認欠席として教育的措置を受けられる場合があります。
公認欠席＝出席ではありません。公認欠席の取扱いについては科目担当者によって異なります。

●授業中に守るべきマナーについて

本学では、勉学に集中できる静穏な学修環境の整備を目的に、全学を挙げて規律ある学修環境づくりに取り組んでいます。下記の規律の主旨を理解し、各自が規律遵守を心がけてください。

受講心得

一、本学学生は、建学の精神、学園訓に則り、学びの主体として自ら学修の意義を見出し、真摯に学業に取り組むこと。
二、前条の精神に基づき、授業においては、授業の妨げになるような行為を慎むこと。
三、授業の妨げとなる行為があり、教員から注意を受けた場合は、自ら省みて速やかに行為を改めること。

シラバス（授業計画）

大学の授業科目には、それぞれシラバス（授業計画）が IBU.net 上に公開されています。シラバスとは、その授業内容や進め方について、詳細に記したものです。履修登録を行う前に、必ず確認をして下さい。とくに卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と当該授業科目の関連（卒業時点において学生が身に付けるべき能力）についての詳細は履修要覧を参照し、確認してください。シラバスには、授業の担当教員名などの他、次のような事項が記載されています。

1）授業題目
2）概要
3）到達目標（この授業を受ける場合の目標）
4）授業計画（毎回の授業をどのように進めていくのか）
5）学外活動予定（日程、行先、内容等）
6）目標達成のための授業方法・履修上の注意事項（課題へのフィードバック方法含む）
7）授業時間外に必要な学習（予習・復習に必要な学習内容）
8）授業形態（講義、演習、実習、発表、対話、討論、双方向授業）
9）使用するテキスト（教科書）や、参考図書
10）成績評価の方法（試験やレポート、小テストなど、どのような基準で評価が決まるのか）
11）実習材料費等（実習材料費を徴収する費用について）
12）アクティブラーニングを行っているか、また、その詳細
13）ICT の活用状況
14）ルーブリックを採用しているか
15）14 回全て外国語のみで授業を行っているか（但し外国語教育を主たる目的とする科目は除く）
16）実務経験のある教員による授業内容

※シラバスの見方

シラバスは、IBU.net の授業支援メニュー（PC）→学修支援→シラバス照会から確認することができます。検索画面で授業科目名や担当教員名を入力して検索できます。

※シラバスの使い方

シラバスを読むことによって、授業の詳細な内容を事前に知ることができます。「どの授業を履修するか」を決定する際に、シラバスでその授業の概要などをよく確認して、授業を選択する参考にしてください。また、事前の準備や学習の進み具合の確認等適宜利用してください。

（例）

授業コード					
開講学期		授業区分		曜日・時限	
科目名				単位数	
教員					
授業題目					
概要	本学創設の基礎を築かれた聖徳太子は、人々の救済を願って四箇院（悲田院・療病院・施薬院・敬田院）の制を設けられました。特に敬田院は人々が自ら宗教的情操を涵養し、人格の陶冶をはかり、理想とする未来像の実現のための強い意志を鍛える修養の道場でありました。この敬田院設立の精神を現代的教育に活かしてゆくことが本学の建学の理念であり、その具体化のために、この科目では仏教の修行法の根本である瞑想を中心とした実践を行います。瞑想により心を静めて物事を正しく理解する智慧を獲得するとともに、広く社会に役立つ人格の形成に勤しみます。				
到達目標	瞑想により人格の完成を目指すとともに、諸教科の学修の心構えと態度を身につけることを目標とします。				
授業計画	1　オリエンテーション（礼拝について、読経・瞑想・聖歌斉唱の仕方について） 2　献灯、読経、講話（建学の精神について）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 3　献灯、読経、講話（学園訓について）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 4　献灯、読経、講話（敬田院の精神について）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 5　献灯、読経、講話（瞑想について）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 6　献灯、読経、講話（ボランティア活動）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 7　献灯、読経、講話（四弘誓願について）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 8　献灯、読経、講話（三帰依について）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 9　献灯、読経、講話（仏教聖歌について）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 10 献灯、読経、講話（懺悔文について）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 11 献灯、読経、講話（開経偈について）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 12 献灯、読経、講話（礼儀について）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 13 献灯、読経、講話（仏像を知ろう）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱 14 献灯、読経、講話（般若心経について）、レポート作成、瞑想、聖歌斉唱				
学外教育活動予定 （日程、行先、内容等）					
目標達成のための授業方法・履修上の注意事項 （課題へのフィードバック方法含む）	『履修要覧』及び『学生便覧』に掲載している「仏教の授業規律」を守り、教職員の指示に従うこと。 毎回のレポート提出を出席の要件とする。単位の認定は 3 分の 2 以上の出席を必要条件とする。				
授業時間外に必要な学習	①最初の授業のときに配布する、講話一覧表を見て、辞書などでテーマについて大まかに調べておくこと。 ②講話の中で示された参考文献や興味を持った事柄について、後で調べること。 ③瞑想などの実践を、他の授業の開始前や普段の生活の中でも積極的に行うこと。				
授業形態	実践演習				
テキスト（授業において使用する書籍等）	『聖典聖歌集』（四天王寺大学）				
参考文献（学修をさらに進めるために役立つ書籍等）	適宜プリント配布、PPT で投影				
成績評価の方法	各授業回のレポート提出 100%				
実習材料費等					

アクティブラーニングを行っている								
ペアワーク		グループワーク		プレゼンテーション		ディスカッション		
ロールプレイ		ワークシート		双方向型学習　ICT 等		発見学習		
問題解決型学習		体験学習		調査学習		フィールドワーク		
その他								
学生・教員とも ICT を活用		教員のみ ICT を活用		学生のみ ICT を活用				
PC		タブレット端末		電子黒板		クリッカー		スマートフォン
その他								
ルーブリックを採用している								
全授業回を外国語のみで授業を行っている（外国語教育を主たる目的とする科目は除く）								
実務経験		職業等						
備　考								

※卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連（卒業時点において学生が身につけるべき能力・ナンバリング）についての詳細は履修要覧を参照の上、確認してください。

卒業に必要な単位

●卒業するためには

短期大学部を卒業して学位を得るためには、本学に 4 セメスター、2 年以上在学していることのほか、卒業するために必要と定められた単位を修得しなければなりません。これを「卒業要件単位数」といいます。

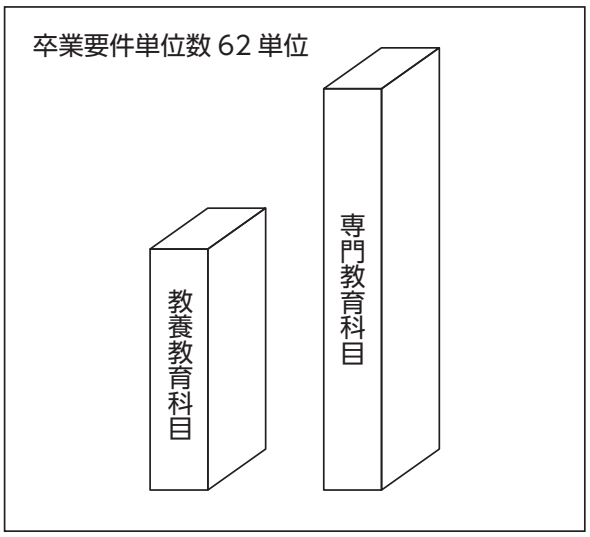
卒業要件単位数は、いずれの学科でも、合計で 62 単位と定められています。

ただし、各学科ごとのカリキュラムに設けられた科目は分類され、要件が定められています。科目の分類は、全学科共通で開講される科目群である「教養教育科目」※1・「基礎教育科目」・「共通教育科目」※2 と、学科（専攻）ごとにそれぞれ開講される「専門教育科目」に分けられます。

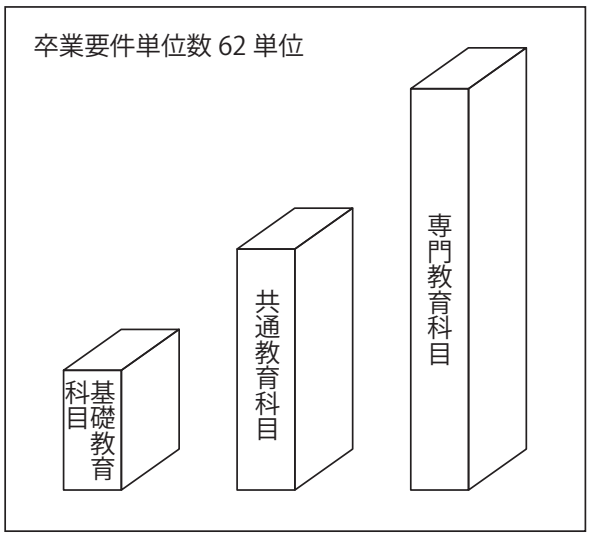
卒業要件単位数については、次のようなイメージで、それぞれ分類ごとの単位数を積み上げることにより卒業を目指します。

※ 1　令和 7 年度入学生
※ 2　令和 6 年度入学生

令和 7 年度入学生



令和 6 年度入学生



学科ごとの卒業要件単位数の詳細については、次ページ以降を参照してください。

※「単位」について

単位とは、ある授業科目を修了（履修登録を行い、授業を受けて、テスト等を受験し合格）した証としてもらえるポイントのようなものです。

例えば、夏学期の月曜日・1 限の「○○論」という授業を受けてテストに合格すれば 2 単位を修得できます。但し、1 単位等の授業もあります。

●卒業に必要な単位数

卒業するためには、本学に 2 年以上在学し、卒業要件として定められた次の科目および単位数を修得しなければなりません。

令和 7 年度入学生
(卒業要件)

学科名	教養教育科目			専門教育科目			合　計
	必修	選択	小計(A)	必修	選択	小計(B)	(A)+(B)
保育科	9	7	16	27	19	46	62
ライフデザイン学科	10	6	16	8	38	46	62

令和 6 年度入学生
(卒業要件)

学科名	基礎教育科目		共通教育科目			専門教育科目			合　計
	必修	小計(A)	必修	選択	小計(B)	必修	選択	小計(C)	(A)+(B)+(C)
保育科	6	6	3	7	10	27	19	46	62
ライフデザイン学科			4	6	10	8	38	46	62

(注) 令和 6 年度入学生は大学の他学部・他学科履修で修得した単位について、専門教育科目の選択科目を修得したものと見なし、12 単位を上限に認定する。

履修

●履修とは

履修登録は、卒業・資格の取得に必要な科目を自分で確認し、自分で科目を選択し、その科目の単位を修得することをいいます。どの科目を履修するかについては、卒業及び免許・資格取得までのプロセスを自分なりに考え、授業科目を体系づけて計画する必要があります。

●履修登録について (※担任教員の指導を必ず受けてください)

履修登録は、各学期の最初に「自分が履修する科目を登録する」手続きです。

Ⅰ　履修登録に必要な書類受取り（オリエンテーション）
「履修要覧」「時間割表」「クラス分け表」等

⬇

Ⅱ　ガイダンス（学科別オリエンテーション）
- カリキュラム（授業の組み立てや履修の仕方等）の説明
- ガイダンスでわからないことがあれば個別に担任教員または教務課をたずねてください。

⬇

Ⅲ　履修登録下書き用紙の記入
用紙はIBU.netからダウンロードします。
シラバス内容を確認してから履修希望科目を下書き用紙に記入してください。また上限単位の範囲以内であるか、不足している科目がないかを再度確認します。

⬇

Ⅳ　履修登録期間
期間内にIBU.netにて登録を行ってください。

⬇

Ⅴ　履修登録時の注意事項
- 科目名、担当教員をよく確認して登録すること。
- 履修登録期間内であれば、何度でも変更が可能。
- 各種実習・集中講義は、画面下の枠から選択します。
- **最終確定した時間割を印刷して、担任教員の履修指導を受けてください。**

必要があれば履修科目を訂正してください。

⬇

Ⅵ　履修訂正期間
登録期間終了後に、やむを得ず時間割の訂正が必要になった学生のために履修訂正期間を設けます。
- **自分で確認し最終確定した時間割を印刷して、担任教員の履修指導を必ず受けてください。**

※履修登録に誤りがあった場合、その科目の単位修得はできません。
十分に確認のうえ、履修登録を行ってください。

履修希望科目の決定時の注意
・在学しているセメスターより上のセメスター配当科目は、履修できません。
・在学しているセメスター以下のセメスター配当科目は、履修できます。
・時間割変更がないか、IBU.netや掲示板で確認してください。
・学科・クラス指定の授業があるので、確認してください。
・科目名の後に「A」「B」とアルファベットが付いている科目はグレード制です。
「A」から順を追って履修してください。
・既に修得した科目を再度履修することはできません。

授業の出席は、履修登録にかかわらず初回から必要です。

各科目の授業概要、到達目標、授業計画、目標達成のための授業方法・履修上の注意事項、授業時間外に必要な学習（予習・復習等）、成績評価の方法など、IBU.net上の「シラバス照会」で必ず確認してください。

●履修単位上限

学生の授業科目の履修登録単位数は、1 学期に 30 単位を上限とします。

【備考】

1） 次にあげる科目は、上記の履修単位上限を越えて履修することができます。

- 集中講義科目
- 卒業年次生の再履修科目

（※卒業年次生が合計 30 単位を越える場合に申し出る必要があります。）

- 保育科の教育実習・教育実習指導科目、保育実習・保育実習指導科目

2） 累積 GPA（※ p.46 参照）が 3.5 以上ある場合、次学期は 32 単位まで履修登録することができます。

3） 下記認定科目については履修単位上限を越えて単位が認定されます。

① 「外国の高等教育機関における授業科目」の認定科目
② 「知識・技能研究Ⅰ・Ⅱ」の認定科目
③ 「大学コンソーシアム大阪」単位互換事業により単位を修得した科目
④ 「本学入学前の既修得単位」の認定科目
⑤ 「他の短期大学または大学等の授業科目」の認定科目
⑥ 「国内実地研修Ⅰ・Ⅱ」
⑦ 海外研修・海外実地研修に関する科目

4）5 セメスター以上には単位上限を適用しません。

●履修計画の立て方

1 履修に必要な資料を受け取り、担任教員の指導を受けましょう。
オリエンテーションには必ず参加し、履修要覧・時間割表・クラス分け表・各学科独自の資料を受け取ってください。

2 履修個別相談会を活用しましょう。
各学期の開講時期に、特定日を設け「履修個別相談会」を開催しています。時間割の組み方など、わからないことがあれば、この期間を活用するとよいでしょう。

●履修登録期間（IBU.net から受け付けます）

学　期	期　間
夏学期	令和7年 4 月 1 日（火）～ 4 月 8 日（火）
冬学期	令和7年 9 月17日（水）～ 9 月22日（月）

※履修登録期間終了後にやむを得ず時間割の訂正が必要になった学生のために履修訂正期間を設けます。
期間については学年暦で確認してください。

●自分が所属するクラスの確認

クラス分け表を見て自分が所属するクラスを確認しましょう。（クラス分け表は春のオリエンテーションにて配付しています。）

科目によってクラスをいくつかの種類で分けて開講しているので、正しいクラスで履修登録を行いましょう。

【注意】 履修登録に誤りがあった場合、その科目の単位修得はできません。十分に確認のうえ、登録を行ってください。

最終確定した時間割を印刷して、担任教員の履修指導を受けてください。

各科目の内容については、IBU.net 上の「シラバス照会」で必ず確認してください。

●科目の開講についての注意事項

⑴ 科目は毎年変更されることがあります。自分の受講したい科目がその年度に開講されるとは限りません。また、配当セメスターについても変更されることがあります。

⑵ 履修希望者が想定している人数より多くなった科目では、クラス指定学生の履修が優先されます。その他指定外の学生については、抽選等による履修人数制限を行う場合があります。

⑶ 履修希望者数が 10 名以下で著しく少人数の科目は、閉講またはクラス合併等が行われる場合があります。

●大学で開講される科目の履修について

令和 7 年度入学生

大学で開講されている科目を履修したい場合は、担任の先生に相談してください。

令和 6 年度入学生

1．本学大学で開講される専門教育科目で、短期大学部の学生が履修できる科目は、以下の①～⑤全ての条件を満たしたものとします。

またその場合でも、適正な人数を超えた場合などは、その学部・学科・専攻の学生の履修が優先されます。

① 自分と同じ年次のカリキュラムである

② 大学の専門教育科目である

③ 他学部・他学科履修不可科目ではない

※ただし、3 セメスター以上で本学大学へ編入を希望する学生は教務課へ申し出てください。

④ 配当セメスターが自分のセメスター以下である

⑤ 自身が所属する学科に同等科目がない

①～⑤は履修要覧（大学分は教務課カウンターに設置）で調べることができます。

2．履修登録

シラバスを確認し必ず授業担当の先生の許可を得たうえで履修登録してください。

IBU.net 上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に「不可」の記載がなくても履修できない場合があります。

3．単位認定

単位を修得した場合、12 単位を上限に専門教育科目の選択科目として算入されます。

（注）人文社会学部人間福祉学科・教育学部・看護学部の専門教育科目は履修できません。

なお、短期大学部他学科の科目についても履修できません。

単位認定

●単位認定の上限

本学学則により、外国の高等教育機関、あるいは日本国内の他の大学や短期大学などでの学修により本学での単位を認定する場合の単位認定の上限は次の通りです。すべてを合わせて 30 単位を上限としています(①と④の組み合わせは 45 単位まで)。

認定区分		上　限	上限(合計)
①留学	外国の高等教育機関における授業科目	30 単位	合わせて最大 30 単位まで (①と④の組み合わせは 45 単位まで)
②知識・技能研究（令和 6 年度入学生）		4 単位	
③大学コンソーシアム大阪		30 単位	
④本学入学前の既修得単位		30 単位	
⑤他の大学または短期大学等の授業科目		30 単位	

1. 単位認定を受ける際は、各項目の注意事項をよく読み、必要な手続きを行うこと
2. 単位認定された科目区分は成績表で再確認すること

●留学による単位認定

本学の認める外国の高等教育機関に留学し、そこで単位を認定された場合、審査のうえ本学の履修単位として認めることができます。ただし留学先の認定単位がそのまま認められる訳ではありません。また認められる単位の上限は 30 単位です（学則第 21・39・40 条参照)。

項　目	内　容
①認定される単位の上限	30 単位
②認定区分	個別認定
③認定される科目群	自分の所属学科に関する内容の留学は、 その「専門教育科目」として認定される。

不明な点は、グローバル教育センターに問い合わせてください。

●外部検定試験による単位認定（令和７年度入学生）

指定された資格・検定について、本学で定められた基準以上の成績を修めた場合に、教養教育科目「実用英語演習」１単位として単位を認定します。単位取得を希望する学生は定められた期間に、教務課にて申請手続きを行ってください。詳細については、IBU.net でお知らせします。

1） 単位認定できる資格等

	種　　目	言　語	認定基準	
			級位又は得点	外部検定試験実施団体等
（1）	実用英語技能検定	英語	準１級以上	日本英語検定協会
（2）	IELTS™	英語	5.5 点以上	日本英語検定協会
（3）	TOEFL® iBT	英語	72 点以上	ETS（Educational Testing Service）
（4）	TOEIC® L & R	英語	785 点以上	国際ビジネスコミュニケーション協会

2） 認定科目
教養教育科目の「実用英語演習」
3） 申請時期：（夏学期）５月上旬頃から１週間程度　（冬学期）９月中旬頃から１週間程度
4） 申請窓口：教務課

●「知識・技能研究」の単位認定（令和６年度以前入学生）

指定された資格・検定について、本学で定められた基準以上の成績を修めた場合に、単位を認定します。単位取得を希望する学生は各学期の定められた期間に、教務課にて申請手続きを行ってください。詳細については、IBU.net でお知らせします。

1） 単位認定できる資格等
「知識および技能審査の成果の単位認定に関する規程」第２条の表を参照してください。
2） **認定科目：「共通教育科目」の「知識・技能研究Ⅰ・Ⅱ」**（認定の上限は４単位まで）
3） 申請時期：（夏学期）５月上旬頃から１週間程度　（冬学期）９月中旬頃から１週間程度
4） 申請窓口：教務課
5） 規程第４条３項にある様に「知識・技能研究Ⅱ」で認定を受ける種目が「知識・技能研究Ⅰ」で認定されたものと同種目あるいは同一語学である場合、その等級は「知識・技能研究Ⅰ」で認定された等級よりも上級でなければなりません。

（例） 実用英語技能検定２級で「知識・技能研究Ⅰ」を申請し、TOEIC® L & R を「知識・技能研究Ⅱ」で認定を受けようとする場合、TOEIC® L & R は 650 点以上でなければならない。他にも、同一資格（情報関連や簿記等）にも制限があり認められないこともありますので、教務課窓口で確認してください。

「知識・技能研究」同等科目一覧表

種　　目	等　　級		
	知識・技能研究Ⅰ	知識・技能研究Ⅱ（Ⅰ）	知識・技能研究Ⅱ
実用英語技能検定	2 級	準 1 級	1 級
TOEFL®（iBT）	52 点以上	70 点以上	100 点以上
TOEIC®　L & R	500 点以上	650 点以上	880 点以上
日商簿記検定	3 級	2 級	1 級
簿記能力検定（全経）	3 級	2 級	1 級

●「大学コンソーシアム大阪」単位互換事業により単位を修得した場合

大学コンソーシアム大阪単位互換とは、他大学の講義を履修することができ、さらに履修した科目が在籍大学の単位として認定される制度です。大学コンソーシアム大阪会員の大学が単位互換包括協定を結んで、多彩な科目の提携を行っています。

受講手続きについて

履修登録とは別の手続きが必要です。詳細は IBU.net で 3 月中旬頃にお知らせしています。

1）単位認定できる科目

大学コンソーシアム大阪加盟大学の主催するオンキャンパス科目やコンソーシアムの主催するセンター科目

2）認定科目

教養教育科目※1 **共通教育科目**※2 **の選択科目**として認定されます。

3）受講手続きについて

履修登録とは別の手続きが必要です。

① 大学コンソーシアム大阪の HP から希望する科目のシラバスや web 出願締切日を確認する。

大学コンソーシアム大阪単位互換事業
http://www.consortium-osaka.gr.jp

↓

② 出願を行う

大学コンソーシアム大阪の HP から、web 上にて出願の入力を行い、承認を受ける（受けないと出願したことにはなりません）。
※オンキャンパス科目 3 月 28 日（金）締切。センター科目 4 月 4 日（金）締切。（ただし、科目によって 9 月に追加募集あり。）

↓

③ 選考

↓

④ 選考結果の通知を受け（IBU.net で通知）、受講を開始する。

※履修が認められた後の履修放棄は他の希望者や科目提供大学に多大な迷惑がかかります。かならず最後まで学修を継続してください。

※ 1　令和 7 年度入学生
※ 2　令和 6 年度入学生

●本学入学前の既修得単位の認定

本学に入学する以前に、他の大学あるいは短期大学（専門職短期大学含む）などにおいて、授業科目を修得した場合もこれらを本学における授業科目の履修とみなし 30 単位（本学入学前の既修得単位と留学による単位認定を合わせるときは、45 単位を上限とします。）まで認定する場合があります。なお、単位認定の申請は入学時の指定された期間のみとなります。

詳細については教務課まで問い合わせてください。

●他の短期大学または大学等の授業科目の単位認定

他の短期大学（専門職短期大学含む）または大学および高等専門学校の専攻科、高等学校等の専攻科または専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上であることおよびその他の文部科学大臣の定める基準を満たすこと）において学生が行った学修や、その他の文部科学大臣が別に定める学修については、これを本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより 30 単位まで認定する場合があります。

試験・成績

- 成績評価の方法
- 定期試験
  ── 期間・時間割発表方法・定期試験時間等について
- 追試験
  ── 定期試験をやむを得ず受験ができなかった場合について
- 再試験
  ── 不合格になった科目の再試験について
- 再受験
- 成績と GPA
  ── 発表方法・評価方法・GPA について

成績評価の方法

成績評価は、科目や担当者により評価方法、評価基準が異なります。
評価方法・評価基準については、シラバスを確認してください。
試験等成績評価の方法には次の種類があります。

種　類	内　容
①授業中の試験・レポート	平常の授業時間内で行う小テストやレポート課題のことです。（下記参照）
②定期試験	夏学期・冬学期の各学期末の定期試験期間中に実施する試験です。（p.41 参照）
③追試験	病気等やむを得ない理由により定期試験を受験できなかった場合に、所定の手続きをした上で受験することができる試験です。（p.43 参照）
④再試験	当該学期に履修登録し、不合格となった場合は、再試験申込日に申し込むことで再試験を受験することができます。（p.44 参照）
⑤再受験	短期大学部の学生で、再履修すべき授業科目が授業時間割などの都合によりやむを得ず再履修できない場合には、その授業科目が開講されている学期の履修登録期間内に「再受験願」を教務部長に提出することができます。これが受理されれば履修登録期間内に、授業科目担当者の指導を受けた上で、その学期の再試験期間内に再試験を受けることができます。

●授業中の試験・レポート

授業中に実施する小テストの実施要領や、レポート課題については、各科目の担当教員が指示します。
日程等はすべて授業中に指示されます。
定期試験を行わず小テストやレポート課題の結果のみで成績評価を行う科目もあります。なお、授業内の確認テスト・小テストやレポート課題は授業の一部とみなし、追試験の対象になりません。
また、小テストやレポート課題でも学生証の提示が必要となることがありますので、学生証は常に携帯しておいてください。

定期試験

定期試験は年に 2 回、以下の期間に実施します。

学　期	日　程
夏学期	令和 7 年 7 月 17 日（木）～ 7 月 24 日（木）
冬学期	令和 8 年 1 月 10 日（土）～ 1 月 20 日（火）

各定期試験期間中には、予備日を設けています。予備日とは、気象警報発令等で試験が実施できない場合の振替日です。万一の場合に備えて、必ずスケジュールをあけておいてください。

定期試験期間中の詳細は、別途 IBU.net 等で通知します。

●時間割発表

定期試験を実施する授業科目および時間割は、試験開始日の 2 週間前に IBU.net で掲示します。

IBU.net の「試験時間割」機能では、自分が履修登録している科目の試験および試験実施教室が表示されます。通常の授業で使用している教室と試験時の教室が変更になっている場合もありますので、試験日までに必ず確認しておきましょう。

試験に関わる重要なお知らせがある場合は、IBU.net を利用してお知らせします。定期的に確認するようにしてください。

●定期試験時間

定期試験の時間帯は、次の通りです。通常の授業時間と開始時間は同じです。

時限	定期試験時間
1 時限	9：00 ～ 10：00
2 時限	10：55 ～ 11：55
(昼休み)	11：55 ～ 13：25
3 時限	13：25 ～ 14：25
4 時限	15：20 ～ 16：20
5 時限	17：10 ～ 18：10

●受験にあたっての注意点

受験心得

1　試験場では、すべて監督者の指示に従うこと。
2　試験は指定された座席で受けること。
3　学生証を携帯していない場合は、試験を受けることができない。
4　学生証は机上の指定された場所に提示すること。
5　机上には筆記用具（筆箱不可）、学生証、持ち込み許可の指定された物以外は置かないこと。許可された物以外の持ち物は足元に置くこと。
6　スマートフォン・携帯電話などの通信可能な機器については、その電源を切り、かばんの中へ片付けること。時計としては使用できない。かばんの中へ片付けずに、身につけていた場合は不正行為となる。
7　試験場内の自分の座席および机上やその内側等に、試験範囲あるいは試験内容に関する事項を転写しないこと。
8　試験開始後は試験場内の座席および机上やその内側等に、故意にその試験に際して認められた物品以外の物を放置しないこと。
9　試験開始後の私語はしてはならない。
10　試験場内での物品の貸し借りは行わないこと。
11　試験場内ですでに記入がなされた答案・その他を故意に見たり、また、自身あるいは他人の記入がなされた答案・その他を故意に第三者に提示しないこと。
12　試験開始後 20 分を経過した後に、試験場に入室することはできない。
13　試験開始後 30 分を経過した後は、監督者の指示により試験場より退室することを認める。
14　答案用紙は白紙であっても、学籍番号・氏名など必要事項を記入の上、これを提出しなければならない。

以　上

●不正行為

試験期間内又は試験期間外に行われた試験において不正行為が発覚した当該科目の成績は零点とします。また、同一学期内に不正行為を 2 度以上行った者は、当該学期の試験の成績をすべて零点とします。

ここでいう不正行為とは、原則として前掲の「受験心得」の注意事項を守らなかった場合をいいますが、その授業科目担当者あるいは試験監督者が、これに準ずる行為であると判断した場合も、上記の処分を受けることがあります。

●仮学生証の発行

学生証を忘れた場合は、学生支援センターで、仮学生証の発行を受けてください。

仮学生証の発行は学年暦に記載の

・夏学期定期試験、夏学期追試験、夏学期再試験
・冬学期定期試験、冬学期追試験、冬学期再試験

のそれぞれの試験期間中に一度しかできません（発行日のみ有効）。

学生証を紛失した場合は、証明書発行サービスで手続きを行い、学生支援センターにて速やかに再発行の申込みを行ってください。（手数料：3,000 円）

追試験

定期試験をやむを得ない事由により受験することが出来なかった場合は、その授業科目の試験当日を含み 7 日以内に追試験申込書を教務課に提出し、これが受理されれば追試験を受けることができます。追試験申込書を提出する時には、試験が受けられない事由を証明する書類を添えなければなりません。

●追試験手続きの手順

1） 追試験申込書の提出（定期試験が受けられなかった理由を客観的に証明できる書類を添付）。
2） 追試験受験が認められたか確認する（追試験申込書提出の 3 日後以降に IBU.net 等で通知）。
3） 指定された日時に IBU.net で発表される追試験時間割またはレポート課題を確認する。
4） 追試験を受ける。または定められた期間までにレポート課題を提出する。

【注意事項】
- 追試験申込書の受理の確認は電話では行いません。必ず IBU.net または教務課窓口で確認して下さい。
- 提出した書類に不備がある場合、追試験申込書は受理されません。
- 提出した証明書などに改ざんや不正があった場合は厳正に処分します。

※追試験を筆記試験で実施する場合は、p.44 の再試験の期間中に実施します。

●追試験の対象となる事項

理　由	必要な証明書など
本人の病気・怪我	試験日を含む医師の診断書（領収書での受付は不可）
公共交通機関の遅延 （自宅からの通学経路に限る）	20 分以上の遅延証明書
忌引（3 親等以内の親族）	葬儀証明書
就職試験	キャリアセンター又は教職教育推進センター発行の公認欠席届
公式試合・発表会等	学生支援センター発行の公認欠席届
裁判員制度	裁判員に選ばれたことが分かる書類
災害	被災証明書または罹災証明書
その他教務部長が認めるもの	個別に指示する

※公認欠席届の発行方法は、該当部署で確認してください。

●追試験の対象とならない事項（質問の多い事項を抜粋）

授業時間内に行われる小テストやレポート提出（真にやむを得ない事由を除く）
交通事故（怪我による通院を除く）、交通渋滞
出席回数や平常点の不足等により、合格の見込みがない科目（受理後の取消も有）
医師の診断書がない病気・怪我（領収書のみは不可）
公認欠席にならない法事など
選考を伴わない就職活動
ボランティア活動、インターンシップ

再試験

当該学期に履修登録し、不合格となった科目については、再試験申込日に申し込むことで再試験を受験することができます。

再試験を受けることができる科目数は 1 学期につき 5 科目までです。

授業科目担当者によっては再試験を行わない場合や、出席日数によって再試験の受験が許可されない場合があります。

再試験の実施日に受験できなかった場合の追試験は行いません。

再試験は年に 2 回、以下の期間に実施します。

学期	日　程
夏学期	令和 7 年 8 月 7 日（木）～令和 7 年 8 月 9 日（土）
冬学期	令和 8 年 2 月 5 日（木）～令和 8 年 2 月 7 日（土）

※再試験は、再試験の申請をした学生のみ対象です。対象者がいない場合、再試験は行いません。

●再試験手続きの手順

1） 再試験申込日に教務課で申し込みを行う。(受付時間：10 時 00 分～ 15 時 00 分)

- 手続きに必要なもの：①学生証
  ②受験手数料：1 科目につき 1,000 円（※科目数は 1 学期につき 5 科目まで）

2） 指定された日時に IBU.net で発表される再試験時間割またはレポート課題を確認する。

3） 再試験を受験する。または定められた期日までにレポート課題を提出する。

●再試験の成績評価

再試験による科目の成績評価は、上限が 60 点となります。

成績と GPA

●成績発表

各学期の定期試験後の成績は、学年暦に記載の成績公開日に IBU.net の「成績照会」機能で発表します。必ず各自で確認をして、次セメスター以降の学修計画の見直しを行ってください。

また、本学の教育方針に基づき、セメスター毎に成績表を保護者宛に送付します。さらに、成績や時間割の閲覧が可能な IBU.net の ID とパスワードを送付します。

●成績評価

成績の評価は「秀」「優」「良」「可」「不合格」「認」で表します。「不合格」以外が「合格」となります。「認」は単位は付与されますが、成績や GP は付与されません。

単位修得	評　価	得　点	GP	備考
できる	秀	90-100	4	秀：目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
	優	80-89	3	優：目標を十分に達成している。
	良	70-79	2	良：目標を達成している。
	可	60-69	1	可：目標を最低限度達成している。
	認		対象外	教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定します。
できない	不合格	0-59	0	不合格：目標を達成していないので再履修が必要である。

表中の GP については、次の「GPA」の項目で説明します。

不合格科目については、IBU.net の「成績照会」画面には表示されますが、成績証明書には記載されません。

● GPA（グレード・ポイント・アベレージ）

GPA は、学生個人の成績を客観的・総合的に評価するための指標です。 各授業科目の 5 段階評価に対して、4 ～ 0 のグレード・ポイント（GP）を付与して算出する 1 単位あたりの平均値をいいます。GPA を利用することで、学修の質を評価することができます。
GPA は次のように算出されます。

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{（当該学期の履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数）の合計}}{\text{当該学期の履修登録総単位数}}$$

$$\text{年度 GPA} = \frac{\text{（当該年度の履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数）の合計}}{\text{当該年度の履修登録総単位数}}$$

$$累積\ GPA = \frac{（在学全期間の履修登録科目の\ GP \times 当該科目の単位数）の合計}{在学全期間の履修登録総単位数}$$

IBU.net の成績照会欄に各種 GPA を記載しています。

● GPA の活用

1） 2 学期連続して学期 GPA が 1.00 未満であった学生に対し、学修・学生生活に対する助言指導を行い、その後の学業続行の見込みがないと判断した場合は退学勧告を行います。
2） 累積 GPA が 3.5 以上ある場合、次学期は所定の履修単位上限を越えて 32 単位まで履修登録することができます。
3） 学生の履修指導の際、GPA を参考にすることがあります。その他、履修条件、留学や奨学金などの選考基準として GPA の数値が条件となる場合があります。

● GP の算出対象

1） 過去に不合格となり、再履修をして合格となった場合でも、過去の不合格履歴が GPA の算出対象となります。
2） 追試験、再試験または再受験が発生した科目はその評価を GP に換算します。
3）「認定」の科目は単位は付与されますが、成績や GP は付与されず、算出対象になりません。
4） 不合格科目の GP を 0 とし、GPA 算出の対象とします。

●成績照会について

以下の条件に当てはまる科目については、発表された成績について、定められた期間中に「成績照会申請書」を教務課に提出することで、担当教員へ成績の確認を申し出ることができます（本人の申し出に限る）。
申請期間等は事前に掲示しますので、定められた期間以外は受け付けません。

【申請条件】
1） 該当科目の履修登録がされていること。
2） 授業に 3 分の 2 以上出席していること。
3） 指定されたレポート等の課題を必ず提出していること。
※手続きの詳細は必ず IBU.net で確認してください。

必ず本人が申請しなければなりません。
成績照会の申請は、成績について誤りがないかどうかを確認するための、とても重要な手続きですので、申請には必ず本人が直接教務課窓口へ申し出ることが必要です。

IBU.net での成績表示

この表示は見本のため、履修年度等、
実際の流れと異なります。

評価欄

秀　……　90 点～ 100 点
優　……　80 点～ 89 点
良　……　70 点～ 79 点
可　……　60 点～ 69 点
不可　……　0 点～ 59 点
（素点欄が空欄も不合格）
＊　……　現在履修中
認　……　単位を認定された科目

表示パターンを変更することで、学期ごとにまとまった表示で成績の確認を行うことも可能です。

表示パターン　◉ 通常　○ 年度学期別

科目名	単位	評価	素点	年度	学期	教員氏名
《教養教育科目》						
和の精神Ⅰ	1	優	80	2025	夏学期	
和の精神Ⅱ	1	秀	90	2025	冬学期	
仏教概説	2	良	75	2025	夏学期	
日本国憲法		不可	40	2025	夏学期	
情報処理演習Ⅰ	2	秀	95	2025	夏学期	
社会福祉特別講義Ⅰ	2	可	68	2025	夏学期	
《専門教育科目》						
仏教保育論	2	優	86	2025	夏学期	
保育者論	2	秀	92	2025	冬学期	
教育原理（制度的事項等を含む）		不可	20	2025	冬学期	
保育実践演習Ⅰ	1	優	81	2025	夏学期	
保育実践演習Ⅱ	1	良	76	2025	冬学期	

（注）評価欄に＊が出力された科目は現在履修中です。

ＧＰＡ
通算 ＧＰＡ 2.32
年度 ＧＰＡ

2025
2.32

年度学期ＧＰＡ

25 夏学期	25 冬学期
2.00	2.56

GPA
GPAの詳細はｐ．46を参照のこと

修得単位数欄
修得した単位の区分とその合計を示す。
単位数が、卒業に必要な最低習得単位数を満たしていても、必修科目・選択必修科目を修得していなければ、卒業要件を満たしているとはいえない。

自由単位
卒業に必要な最低修得単位数には含まれない。

単位修得状況

科目分類							合計			
	教養※	専門			その他					
			学科	他学科		自由				
修得済単位数	10	36		0	0	0	46			
合計単位	10	36		0	0	0	46			

※令和６年度以前入学生は、「基礎教育科目」「共通教育科目」の科目区分となる。

修得単位数合計の目安

一概には言えませんが、下表の単位数を目安にしてください。但し、単位数が多くても
その中に修得すべき科目が含まれていないと卒業要件を満たすことにはなりません。

学科	夏学期（前期）		冬学期（後期）	
	学　年	目安となる修得単位	学　年	目安となる修得単位
保育科 ライフデザイン学科	1 年次（1 セメスター）	16 単位以上	1 年次（2 セメスター）	31 単位以上
	2 年次（3 セメスター）	47 単位以上		

教育課程
（授業科目一覧・単位数など）

- 授業科目編成表の見方
- ナンバリングコードの表示と見方
- 履修系統図について
- 基礎教育科目（全学共通）
- 共通教育科目（全学共通）
- 「キャリア教育」について
- 「情報教育」について
- 専門教育科目について
  - 保育科
  - ライフデザイン学科
- 重ねて履修できない科目一覧表

教育課程
（授業科目一覧・単位数など）

●授業科目編成表の見方

種別	授業概要コード (A)	科目名 (B)	単位数 必修 (C)	単位数 選択 (C)	配当セメスター (D)	開講学期 (E)	身につけるべき能力 ① (F)	②	③	④	⑤	ナンバリングコード (G)	備考 (H)
専門教育科目	V7010	ライフデザインゼミナールⅠ	1		1～2	S	◎						
	V7020	ライフデザインゼミナールⅡ	1		1～2	W	◎						
	V7030	ライフデザインゼミナールⅢ	1		3～4	S	◎				○		
	V7040	ライフデザインゼミナールⅣ	1		3～4	W							

A……授業概要コード：IBU.net の授業コードに対応。

B……科目名

Ａ、Ｂなどのアルファベットが付いている科目はグレード制を設けている。Ａからアルファベット順に履修を進めなければならない。

Ⅰ、Ⅱなどの数字が付いている科目は、途中の数字からの履修も可能。ただし備考欄や授業概要でⅠから順に履修を進めるよう記載があれば、それに従って履修すること。

C……単位数

必修：卒業するためには必ず修得しなければならない科目。

〔〕でくくられている場合、右に記された単位のそれぞれの科目から選択して、左に記された単位数を必ず修得しなければならない。

選択：卒業するためには選択して所定の単位数を修得しなければならない科目。

D……配当セメスター：原則として履修すべきセメスター

配当セメスターで履修することが望ましいが、配当セメスターより上のセメスターに在学していれば履修は可能。

E……開講学期

Ｓ：夏学期開講

Ｗ：冬学期開講

Ｓ／Ｗ：夏学期と冬学期に同一内容で開講する。

Ｓ・Ｗ：夏学期と冬学期に連続して開講する。

F……身につけるべき能力

卒業認定・学位授与の方針に基づき、卒業時点において学生が身につけるべき能力と各科目との対応を表している。

G……ナンバリングコード

ナンバリングとは、区分や水準等をもとに授業科目に番号を付けることで、カリキュラム全体の中での各授業科目の学修の段階や順序を表すものです。履修登録や学修の上での参考にしてください。

H……備考欄

入学年度を指定している場合がある。履修登録時に注意すること。

●ナンバリングコードの表示と見方

10 桁のアルファベット・数字で表します。

J	AAA	1	001	a	0
①	②	③	④	⑤	⑥

①第 1 区分コード　……　短期大学に関する科目で区分

②第 2 区分コード　……　教養教育科目（令和 7 年度入学生）

基礎教育科目・共通教育科目・学科・専攻・分野で区分（令和 6 年度入学生）

※①第 1 区分・②第 2 区分についての詳細は、以下の「区分コード表」を確認してください。

③水準コード　……　1: 初級レベル［入門・導入的な内容の科目］

2: 中級レベル［発展的・応用的な内容の科目］

3: 上級レベル［総合的かつ高度な内容の科目］

④科目コード　……　原則、学則に規定された科目の順序

⑤授業での使用言語　……　a：日本語 b：英語 c：日本語および英語 d：その他

⑥科目区分コード　……　0：専門　1：基礎および共通教育　2：リメディアル科目

区分コード表

①第 1 区分コード		②第 2 区分コード	
	コード	学科・専攻・分野	コード
短期大学 Junior College	J	教養教育科目　こころと思想	LAA
		教養教育科目　学びの基礎	LBB
		教養教育科目　社会と文化	LCC
		教養教育科目　情報と自然科学	LDd
		教養教育科目　健康と福祉	LEE
		教養教育科目　英語	LFF
		教養教育科目　キャリア教育	LGG
		教養教育科目　学外研修	LHH
		基礎教育科目	AAA
		［保育科］	
		共通教育科目　学びの基礎	BBA
		共通教育科目　こころと思想	BBB
		共通教育科目　社会と文化	BBC
		共通教育科目　情報と自然科学	BBD
		共通教育科目　健康と福祉	BBE
		共通教育科目　英語	BBF
		共通教育科目　キャリア教育	BBG
		共通教育科目　知識・技能	BBH
		共通教育科目　学外研修	BBI
		［ライフデザイン学科］	
		共通教育科目　学びの基礎	BCA
		共通教育科目　こころと思想	BCB
		共通教育科目　社会と文化	BCC
		共通教育科目　情報と自然科学	BCD
		共通教育科目　健康と福祉	BCE
		共通教育科目　英語	BCF
		共通教育科目　キャリア教育	BCG
		共通教育科目　知識・技能	BCH
		共通教育科目　学外研修	BCI

●履修系統図について

履修系統図とは、ディプロマ・ポリシーで示されている「卒業時点において学生が身につけるべき能力」を修得するために科目がどのように配置されているのか、つまり、各科目の関連性やつながりを体系的に明示したものです。

令和７年度入学生

●教養教育科目（全学共通）

〈教養教育科目の概要〉

「教養教育科目」は、学問の対象や性格によって、「こころと思想」、「学びの基礎」、「社会と文化」、「情報と自然科学」、「健康と福祉」、「言語」、「キャリア教育」の７つの科目群に分類される。

○「こころと思想」は、建学の精神である聖徳太子の仏教精神を深めるとともに、心の問題や思想について学び、自らの生き方を振り返る一助とする。

○「学びの基礎」は、大学での学修に必要なスキルを育成するとともに、専門的な学びへのスムーズな移行を図る。

○「社会と文化」は、法や政治という社会システム等について学ぶことで、社会の一員としての意識を高める。

○「情報と自然科学」は ICT 活用能力等を高めるとともに、自然科学の観点から生命や社会について考える素地を養成する。

○「健康と福祉」は、心身の健康に対する意識を高めるとともに利他の精神に基づく福祉の考えを学ぶ。

○「英語」は、コミュニケーション技能に加えて、異文化理解や多文化共生等のグローバル社会に対応できる資質・能力を養成する。

○「キャリア教育」は、入学から卒業までを見通したキャリアデザインを構想するとともに、卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を身につける。

〈教養教育科目「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の授業規律について（節録）〉

礼儀を正して静穏な環境で自らを省み、自他を尊重し、思慮深い安定した人格を養うことが「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の授業の目的です。主旨を自覚し、以下の規律を遵守してください。

1．単位の認定は、全授業回数のうち３分の２以上の出席を必要条件とする。「和の精神Ⅱ」の場合、全ページ自筆による書写記入済みの写経用紙の提出も必要条件とする。なお、以下の２・３・４の項目に違反する場合は出席を認めない。

2．出席時の服装は、以下のスーツ着用基準に定められた服装を端正に着用する。

◆スーツ着用基準

〈スーツ、ジャケットとパンツまたはスカート〉

黒色、濃紺、チャコールグレーのいずれか一色の組み合わせで、無地のもの

〈カッターシャツ、ブラウス〉

無地またはストライプ

〈ネクタイ（スーツの場合のみ）〉

無地またはストライプ

〈靴〉

黒色または茶色で革製の短靴（スニーカー不可）または、フォーマルパンプス

※カッターシャツやブラウスについて、ビジネスシーンでは白色の無地が一般的である。

3．入堂時には『聖典聖歌集』を所持していることを示し、授業中は常に携帯する。

4．授業は午前 10 時 55 分開始である。開始前には入堂し着座しておく。

- 公共交通機関（自宅からの通学経路に限る）の遅延による遅刻は、公共交通機関の延着証明の提示により、やむを得ない遅刻と判断される場合にのみ入堂を認める。

5．授業中は姿勢を正し、静寂を守り、実践に集中する。
6．授業中の私語・通信機器等の使用は禁止する。
- 注意されたら、すぐに改める。
- 再三の注意にかかわらず改めない者については、授業妨害と見なし、改善が認められない場合は、欠席扱いとし、保護者にも教務部より状況を伝える。

7．授業中の中座は原則として禁止する。
- やむを得ずトイレ等を利用する者は、学生証を階段前の教員に提出する。

8．心身の疾患等により、合理的配慮の必要がある者は、事前に診断書などの証明書をもって学生支援センターに授業配慮申請を行うか、教務部教務課（礼拝担当）に申し出る。座席変更などの配慮を行う。
9．私語・通信機器等の使用・中座等について、改善の意思がない場合は、「授業妨害」「建学の精神に反する行為」と見なし、その学期の「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の単位を不認定とすることがある。

「キャリア教育」について

キャリア教育は 1 年次からスタートし、卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を段階的に身につけることができます。

「キャリア教育」科目は 1 年次から 2 年次に掛けてキャリア意識や産業・経済に関する知識を養うことを目的とした授業です。これらの科目は就職を目指す全学生に必修の意識で学んでもらいたいという思いから時間割上も履修しやすいように配置し、履修を勧めています。

科　目	配当セメスター	分　類
キャリアデザイニング	1 ～ 2 セメスター	ライフデザイン学科必修科目
産業・企業研究	3 ～ 4 セメスター	

その他、キャリアセンターが主催する各種講座やセミナーもあります。これらは正規授業の「キャリア教育」科目と組み合わせるとより効果的です。学科のオリエンテーションやゼミ、各部署からの案内に注意を向けて、自分の将来に有効な計画を立ててください。

「情報教育」について

現代の情報社会を生き抜くための力を養うことを目的とした授業です。

1．IBU 情報教育プログラム

1 年次配当科目「情報処理演習 I」および「情報処理演習 II」では、数理・データサイエンス・AI 教育も取り入れています。これらの科目では、本学が重要視している ICT やデータサイエンスを学ぶための基礎力とともに、多くの業種で必須となるツールを適切に活用する能力を身に付けます。この 2 科目の両方を履修することを強く勧めています。

共通教育科目	配当セメスター	分　類
情報処理演習 I	1 ～ 2 セメスター（S/W）	選択必修科目
情報処理演習 II	2 セメスター（W）	選択必修科目

※「情報処理演習 I・Ⅱ」については、学科によるクラス指定に従って履修してください（再履修者は除く）。

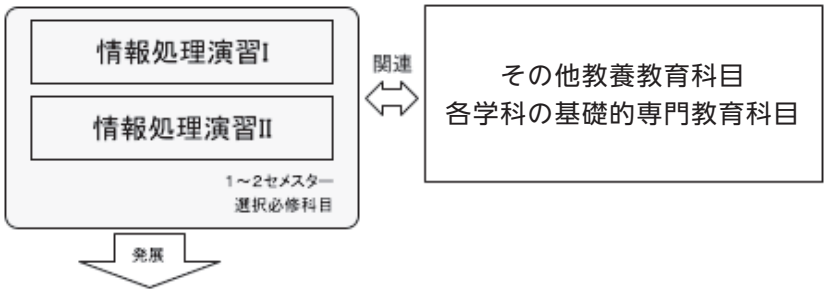
2．その他の情報教育科目

「情報処理演習 I」および「情報処理演習 II」で身につけた基礎力を基に、2 年次配当科目ではさらなる発展的な技能、知識を身に付ける科目も配置しています。

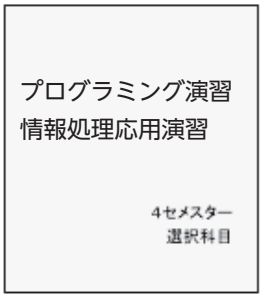
共通教育科目	配当セメスター	分　類
プログラミング演習	4 セメスター（W）	選択科目
情報処理応用演習	4 セメスター（W）	選択科目

「情報処理演習 I」および「情報処理演習 II」は、その他教養教育科目や各学科の基礎的専門教育科目で必要となる技能・知識を身に付ける重要な科目です。また、その他情報教育科目は、これらの内容を発展させた形で実施されます。

1．IBU 情報教育プログラム



2．その他の情報教育科目



令和７年度入学生

●教養教育科目

※単位数の〇印は教免に関する科目。〇印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.81 ～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	主要授業科目	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
こころと思想	X0010	和の精神Ⅰ	1			1～2	S	○	○	◎		JDGA1010a1	
	X0020	和の精神Ⅱ	1			1～2	W	○	○	◎		JDGA1020a1	
	X0030	仏教概説	2			1～2	S/W	○	○	◎		JDGA1030a1	
	X0120	仏教実践演習			2	3～4		○	○	◎		JDGA2120a1	
	X0125	聖徳太子概説			2	3～4		○	○	◎		JDGA2125a1	
	X0140	哲学入門			2	1～2	S/W		◎			JDGA1140a1	
	X0146	現代思想Ⅰ			2	1～2	S		◎			JDGA1145a1	
	X0151	現代思想Ⅱ			2	3～4			◎			JDGA1150a1	
	X0130	心理学Ⅰ			2	1～2	S		◎			JDGA1130a1	
	X0135	心理学Ⅱ			2	1～2	W		◎			JDGA2135a1	
学びの基礎	X0185	情報処理演習Ⅰ		2	②	1～2	S		◎			JDGB1185a1	教免・保育士はいずれか１科目必修
	X0190	情報処理演習Ⅱ			②	1～2	W		◎			JDGB1190a1	
	X0051	日本語リテラシー（基礎）			2	1～2	S/W		◎			JDGB1050a1	
	X0052	日本語リテラシー（応用）			2	3～4			◎			JDGB2052a1	
	X0055	アドバンストコミュニケーション			2	1～2	S		◎			JDGB2055c1	
社会と文化	X0045	現代社会と人権Ⅰ		2	2	1～2	R7年度開講せず	○	○	◎	○	JDGC1045a1	
	X0046	現代社会と人権Ⅱ			2	1～2	W	○	○	◎	○	JDGC1046a1	
	X0155	現代社会と仏教			2	3～4			◎			JDGC1155a1	
	X0176	仏教文化入門			2	3～4			◎			JDGC1176a1	
	X0160	日本国憲法			②	1～2	S/W		◎			JDGC1160a1	教免必修
	X0165	法学入門			2	1～2	S/W		◎			JDGC1165a1	
	X0170	政治学			2	1～2	W		◎			JDGC1170a1	
情報と自然科学	X0196	プログラミング演習			2	1～2	W		◎			JDGD1196a1	
	X0201	情報処理応用演習			2	1～2	R7年度開講せず		◎			JDGD1201a1	
	X0205	生命の科学			2	1～2	S/W		◎			JDGD1205a1	
	X0210	環境の科学			2	1～2	S		◎			JDGD1210a1	
健康と福祉	X0220	スポーツⅠ			①	1～2	S		◎			JDGE1220a1	ⅠとⅡの２単位教免必修 Ⅰは保育士必修
	X0225	スポーツⅡ			①	1～2	W		◎			JDGE1225a1	
	X0230	体育講義			2	3～4			◎			JDGE1230a1	保育士必修 保育科以外履修不可
	X0235	社会福祉概論			2	1～2	S/W		◎	○		JDGE1235a1	
	X0245	児童福祉論			2	1～2	S/W		◎	○		JDGE1245a1	
	X0250	老人福祉論			2	1～2	S/W		◎	○		JDGE1250a1	
	X0255	障害者福祉			2	1～2	W		◎	○		JDGE1255a1	
	X0265	手話コミュニケーション			2	1～2	S/W		◎	○		JDGE1265a1	
英語	X0270	英語Ⅰ	①(注1)			1～2	S		◎			JDGF1270a1	教免・保育士必修
	X0275	英語Ⅱ			①	1～2	W		◎			JDGF1275a1	
	X0280	実用英語演習			1(注2)	3～4			○			JDGF2900c1	

令和７年度入学生

●教養教育科目

※単位数の〇印は教免に関する科目。〇印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.81 ～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	主要授業科目	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
キャリア教育	X0327	キャリアデザイニング	2 (注3)			1 ～ 2	S		◎			JDGG1327a1	
	X0277	産業・企業研究			2	3 ～ 4			◎			JDGG2328a1	
	X0326	キャリア特別講義			2	1 ～ 2	S		◎			JDGG2326a1	
学外研修	X0381	国内実地研修Ⅰ			1 (注4)	1 ～ 2						JDGH1905a1	
	X0382	国内実地研修Ⅱ			1 (注4)	1 ～ 2						JDGH1910a1	
	X039B	海外実地研修			1 (注5)	1 ～ 2						JDGH1915a1	
	X0411	海外語学研修Ⅰ			1 (注6)	1 ～ 2						JDGH1920a1	
	X0412	海外語学研修Ⅱ			1 (注6)	1 ～ 2						JDGH1925a1	
	X0413	海外語学研修Ⅲ			1 (注6)	1 ～ 2						JDGH2930a1	
卒業に必要な最低修得単位数													
保育科			9		7	合計 16 単位							
ライフデザイン学科			10		6	合計 16 単位							

（注１）ライフデザイン学科は、「英語Ⅰ」を選択科目とする。
（注２）「実用英語演習」の運用については、別に定める。
（注３）保育科は、「キャリアデザイニング」を選択科目とする。
（注４）「国内実地研修」については、別に定める規程に基づき運用する。
（注５）「海外実地研修」については、別に定める規程に基づき運用する。
（注６）「海外語学研修」については、別に定める規程に基づき運用する。

令和６年度入学生

●基礎教育科目（全学共通）

〈基礎教育科目の概要〉

「基礎教育科目」は４つの科目から構成されている。
そのうち、「和の精神Ⅰ」では瞑想、「和の精神Ⅱ」では写経と瞑想といった実践を行い、それを通して仏教に関する知識と考え方を学び、思慮のある安定した人格の形成を図る。

「仏教概説」では「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」の意義をより深く理解し、仏教に関する基礎的な知識を学び、仏教的な情操の体得を図る。

「現代社会と人権」では、人間存在のかけがえのなさを知り、現代社会における多様な人々との共生の重要さを学ぶ。
本科目群の学びを通して慈愛の心と利他の精神をもつ豊かな人間性を育てていく。

●基礎教育科目編成表（短期大学部共通）

種別	授業概要コード	科　目　名	単位数		配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力			ナンバリングコード	備考
			必修	選択			①	②	③		
基礎教育科目	X0010	和の精神Ⅰ	1		1～2	S	○	◎		JAAA1001a1	
	X0020	和の精神Ⅱ	1		1～2	W	○	◎		JAAA1002a1	
	X0030	仏教概説	2		1～2	S/W	○	◎		JAAA2003a1	
	X0040	現代社会と人権	2		1～2	S/W	○	◎		JAAA1004a1	
卒業に必要な最低修得単位数			6		合計６単位						

〈基礎教育科目「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の授業規律について（節録）〉

礼儀を正して静穏な環境で自らを省み、自他を尊重し、思慮深い安定した人格を養うことが「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の授業の目的です。主旨を自覚し、以下の規律を遵守してください。

1．単位の認定は、全授業回数のうち３分の２以上の出席を必要条件とする。「和の精神Ⅱ」の場合、全ページ自筆による書写記入済みの写経用紙の提出も必要条件とする。なお、以下の２・３・４の項目に違反する場合は出席を認めない。

2．出席時の服装は、以下のスーツ着用基準に定められた服装を端正に着用する。

◆スーツ着用基準

〈スーツ、ジャケットとパンツまたはスカート〉
　黒色、濃紺、チャコールグレーのいずれか一色の組み合わせで、無地のもの

〈カッターシャツ、ブラウス〉
　無地またはストライプ

〈ネクタイ（スーツの場合のみ）〉
　無地またはストライプ

〈靴〉
　黒色または茶色で革製の短靴（スニーカー不可）または、フォーマルパンプス

※カッターシャツやブラウスについて、ビジネスシーンでは白色の無地が一般的である。

3．入堂時には『聖典聖歌集』を所持していることを示し、授業中は常に携帯する。
4．授業は午前 10 時 55 分開始である。開始前には入堂し着座しておく。
- 公共交通機関（自宅からの通学経路に限る）の遅延による遅刻は、公共交通機関の延着証明の提示により、やむを得ない遅刻と判断される場合にのみ入堂を認める。

5．授業中は姿勢を正し、静寂を守り、実践に集中する。
6．授業中の私語・通信機器等の使用は禁止する。
- 注意されたら、すぐに改める。
- 再三の注意にかかわらず改めない者については、授業妨害と見なし、改善が認められない場合は、欠席扱いとし、保護者にも教務部より状況を伝える。

7．授業中の中座は原則として禁止する。
- やむを得ずトイレ等を利用する者は、学生証を階段前の教員に提出する。

8．心身の疾患等により、合理的配慮の必要がある者は、事前に診断書などの証明書をもって学生支援センターに合理的配慮申請を行うか、教務部教務課（礼拝担当）に申し出る。座席変更などの配慮を行う。
9．私語・通信機器等の使用・中座等について、改善の意思がない場合は、「授業妨害」「建学の精神に反する行為」と見なし、その学期の「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の単位を不認定とすることがある。

●共通教育科目（全学共通）

〈共通教育科目の概要〉

「共通教育科目」は学問の対象や性格によって、「学びの基礎」「こころと思想」「社会と文化」「情報と自然科学」「健康と福祉」「英語」「キャリア教育」の７つの科目群に分類される。

「学びの基礎」は、短期大学部での学びや生活に必要なスキルを育成するとともに、専門的な学びへのなめらかな導入を図る。

「こころと思想」は建学の精神である聖徳太子の仏教精神をさらに深めるとともに、心の問題や思想について学び、自らの生き方を振り返る一助とする。

「社会と文化」は「こころと思想」の学びをもとに法や政治という社会システム等について学ぶことで社会の一員としての意識を高める。

「情報と自然科学」は ICT 活用能力を高めるとともに、自然科学の観点から生命や社会について考える素地を養成する。

「健康と福祉」は心身の健康に対する意識を高めるとともに利他の精神に基づく福祉の考えを学ぶ。

「英語」は１年生時に受講し、基礎から応用まで段階を踏まえてコミュニケーション技能を身につけ、高める。

「キャリア教育」は卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を段階的に身につける。さらに、入学から卒業までを見通したキャリアデザインを構想するための支援をおこなう。

「キャリア教育」について

キャリア教育は１年次からスタートし、卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を段階的に身につけることができます。

「キャリア教育」科目は１年次から２年次に掛けてキャリア意識や産業・経済に関する知識を養うことを

目的とした授業です。これらの科目は必修ではありませんが、就職を目指す全学生に必修の意識で学んでもらいたいという思いから時間割上も履修しやすいように配置し、履修を勧めています。

科　目	配当セメスター	分　類
キャリアデザイニング	1 ～ 2 セメスター	ライフデザイン学科必修科目
産業・企業研究	3 ～ 4 セメスター	

その他、キャリアセンターが主催する各種講座やセミナーもあります。これらは正規授業の「キャリア教育」科目と組み合わせるとより効果的です。学科のオリエンテーションやゼミ、各部署からの案内に注意を向けて、自分の将来に有効な計画を立ててください。

「情報教育」について

現代の情報社会を生き抜くための力を養うことを目的とした授業です。

1．IBU 情報教育プログラム

1 年次配当科目「情報処理演習 I」および「情報処理演習 II」では、数理・データサイエンス・AI 教育も取り入れています。これらの科目では、本学が重要視している ICT やデータサイエンスを学ぶための基礎力とともに、多くの業種で必須となるツールを適切に活用する能力を身に付けます。この 2 科目の両方を履修することを強く勧めています。

共通教育科目	配当セメスター	分　類
情報処理演習 I	1 ～ 2 セメスター（S/W）	選択必修科目（保育科） 必修科目（ライフデザイン学科）
情報処理演習 II	2 セメスター（W）	選択必修科目（保育科） 選択科目（ライフデザイン学科）

※「情報処理演習 I・Ⅱ」については、学科によるクラス指定に従って履修してください（再履修者は除く）。

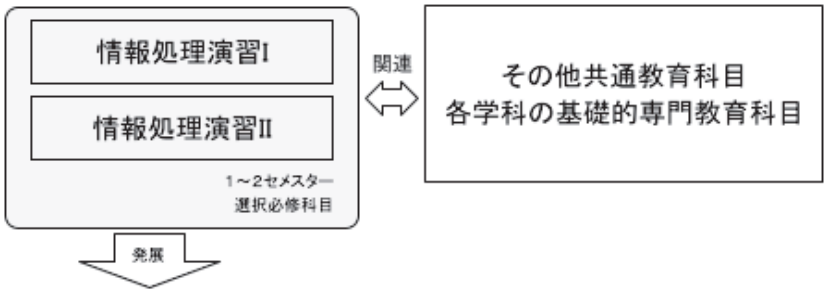
2．その他の情報教育科目

「情報処理演習 I」および「情報処理演習 II」で身につけた基礎力を基に、2 年次配当科目ではさらなる発展的な技能、知識を身に付ける科目も配置しています。

共通教育科目	配当セメスター	分　類
プログラミング	4 セメスター（W）	選択科目
情報システム	4 セメスター（W）	選択科目

「情報処理演習 I」および「情報処理演習 II」は、その他共通教育科目や各学科の基礎的専門教育科目で必要となる技能・知識を身に付ける重要な科目です。また、その他情報教育科目は、これらの内容を発展させた形で実施されます。

1．IBU 情報教育プログラム



2．その他の情報教育科目

令和６年度以前入学生

●共通教育科目編成表（保育科）

※単位数の〇印は教免に関する科目。〇印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.81 ～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
学びの基礎	X0050	基礎文書作成			2	3～4	S/W	◎			JBBA1001a1	
	X0055	アドバンストコミュニケーション			2	1～2	S	◎			JBBA3002c1	
		共通教育特殊講義（注1）			2							
こころと思想	X0120	仏教実践演習			2	3～4	S	○	◎		JBBB2003a1	
	X0125	聖徳太子概説			2	3～4	S/W	○	◎		JBBB2004a1	
	X0130	心理学Ⅰ			2	1～2	S	◎			JBBB1005a1	
	X0135	心理学Ⅱ			2	1～2	W	◎			JBBB2006a1	
	X0140	哲学入門			2	1～2	S/W	◎			JBBB1007a1	
	X0145	現代思想入門			2	1～2	S	◎			JBBB1008a1	
	X0150	構造主義入門			2	3～4	W	◎			JBBB1009a1	
社会と文化	X0155	現代社会と仏教			2	3～4	S	◎			JBBC1010a1	
	X0160	日本国憲法			②	1～2	S/W	◎			JBBC1011a1	教免必修
	X0165	法学入門			2	1～2	S/W	◎			JBBC1012a1	
	X0170	政治学			2	1～2	W	◎			JBBC1013a1	
	X0175	仏教芸術入門			2	3～4	R7年度開講せず	◎			JBBC2014a1	
	X0180	現代日本の文化と社会			2	1～2	R7年度開講せず	◎			JBBC1015a1	
情報と自然科学	X0185	情報処理演習Ⅰ		2	②	1～2	S	◎			JBBD1016a1	教免・保育士はいずれか1科目必修
	X0190	情報処理演習Ⅱ			②	1～2	W	◎			JBBD2017a1	
	X0195	プログラミング			2	1～2	W	◎			JBBD2018a1	
	X0200	情報システム			2	1～2	R7年度開講せず	◎			JBBD2019a1	
	X0205	生命の科学			2	1～2	S/W	◎			JBBD1020a1	
	X0210	環境の科学			2	1～2	S	◎			JBBD1021a1	
	X0215	先端技術			2	1～2	R7年度開講せず	◎			JBBD1022a1	
健康と福祉	X0220	スポーツⅠ			①	1～2	S	◎			JBBE1023a1	ⅠとⅡの2単位教免必修 Ⅰは保育士必修
	X0225	スポーツⅡ			①	1～2	W	◎			JBBE2024a1	
	X0230	体育講義			2	3～4	S	◎			JBBE1025a1	保育士必修 保育科以外履修不可
	X0235	社会福祉概論			2	1～2	S/W	◎	○		JBBE1026a1	
	X0240	社会福祉行政			2	1～2	S/W	◎	○		JBBE1027a1	
	X0245	児童福祉論			2	1～2	S/W	◎	○		JBBE1028a1	
	X0250	老人福祉論			2	1～2	S/W	◎	○		JBBE1029a1	
	X0255	障害者福祉			2	1～2	W	◎	○		JBBE1030a1	
	X0260	レクリエーション論			2	1～2	S	◎	○		JBBE1031a1	
	X0265	手話コミュニケーション			2	1～2	S/W	◎	○		JBBE1032a1	
英語	X0270	英語Ⅰ	①			1～2	S	○			JBBF1033a1	教免・保育士必修
	X0275	英語Ⅱ			①	1～2	W	○			JBBF1034a1	

令和６年度以前入学生

●共通教育科目編成表（保育科）

※単位数の〇印は教免に関する科目。〇印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.81 ～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
キャリア教育		**キャリア研究（注1）**			2							保育科以外履修不可 ※集中講義
	X0284	〈産業・企業研究〉			2	3～4	W	◎	○		JBBG1846a1	
	X0325	社会福祉特別講義Ⅰ			2	1～2	S	◎	○		JBBG3035a1	
知識・技能		知識・技能研究Ⅰ			2						JBBH1036a1	
		知識・技能研究Ⅱ			2						JBBH1037a1	
学外研修		国内実地研修Ⅰ			1（注2）	1～2	S/W				JBBI1038a1	
		国内実地研修Ⅱ			1（注2）	1～2	S/W				JBBI1039a1	
		海外実地研修			2（注2）	1～2	S/W				JBBI1040a1	
		海外語学研修Ⅰ			2（注2）	1～2	S/W				JBBI1041a1	
		海外語学研修Ⅱ			2（注2）	1～2	S/W				JBBI1042a1	
		海外語学研修Ⅲ			2（注2）	1～2	S/W				JBBI2043a1	
卒業に必要な最低修得単位数												
保育科			3		7	合計 10 単位						

（注１）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ２単位付与する。
（注２）運用については、別に定める。

令和６年度以前入学生

●共通教育科目編成表（ライフデザイン学科）

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
学びの基礎	X0050	基礎文書作成		2	3～4	S/W	◎			JBCA1001a1	
	X0055	アドバンストコミュニケーション		2	1～2	S	◎			JBCA3002c1	
		共通教育特殊講義（注1）		2							
こころと思想	X0120	仏教実践演習		2	3～4	S	○	◎		JBCB2003a1	
	X0125	聖徳太子概説		2	3～4	S/W	○	◎		JBCB2004a1	
	X0130	心理学Ⅰ		2	1～2	S	◎			JBCB1005a1	
	X0135	心理学Ⅱ		2	1～2	W	◎			JBCB2006a1	
	X0140	哲学入門		2	1～2	S/W	◎			JBCB1007a1	
	X0145	現代思想入門		2	1～2	S	◎			JBCB1008a1	
	X0150	構造主義入門		2	3～4	W	◎			JBCB1009a1	
社会と文化	X0155	現代社会と仏教		2	3～4	S	◎			JBCC1010a1	
	X0160	日本国憲法		2	1～2	S/W	◎			JBCC1011a1	
	X0165	法学入門		2	1～2	S/W	◎			JBCC1012a1	
	X0170	政治学		2	1～2	W	◎			JBCC1013a1	
	X0175	仏教芸術入門		2	3～4	R7年度開講せず	◎			JBCC2014a1	
	X0180	現代日本の文化と社会		2	1～2	R7年度開講せず	◎			JBCC1015a1	
情報と自然科学	X0186	情報処理演習Ⅰ	2		1～2	S	◎			JBCD1016a1	
	X0191	情報処理演習Ⅱ		2	1～2	W	◎			JBCD2017a1	
	X0195	プログラミング		2	1～2	W	◎			JBCD2018a1	
	X0200	情報システム		2	1～2	R7年度開講せず	◎			JBCD2019a1	
	X0205	生命の科学		2	1～2	S/W	◎			JBCD1020a1	
	X0210	環境の科学		2	1～2	S	◎			JBCD1021a1	
	X0215	先端技術		2	1～2	R7年度開講せず	◎			JBCD1022a1	
健康と福祉	X0220	スポーツⅠ		1	1～2	S	◎			JBCE1023a1	
	X0225	スポーツⅡ		1	1～2	W	◎			JBCE2024a1	
	X0230	体育講義		2	3～4	S	◎			JBCE1025a1	
	X0235	社会福祉概論		2	1～2	S/W	◎	○		JBCE1026a1	
	X0240	社会福祉行政		2	1～2	S/W	◎	○		JBCE1027a1	
	X0245	児童福祉論		2	1～2	S/W	◎	○		JBCE1028a1	
	X0250	老人福祉論		2	1～2	S/W	◎	○		JBCE1029a1	
	X0255	障害者福祉		2	1～2	W	◎	○		JBCE1030a1	
		レクリエーション論		2	1～2	S	◎	○		JBCE1031a1	
	X0265	手話コミュニケーション		2	1～2	S/W	◎	○		JBCE1032a1	
英語		英語Ⅰ		1	1～2	S	○			JBCF1033a1	
		英語Ⅱ		1	1～2	W	○			JBCF1034a1	
キャリア教育		**キャリア研究（注1）**		2							
	X0284	〈産業・企業研究〉		2	3～4	S	◎	○			
	X0327	キャリアデザイニング	2		1～2	S	◎	○		JBCG1035a1	

令和６年度以前入学生

●共通教育科目編成表（ライフデザイン学科）

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
知識・技能		知識・技能研究Ⅰ		2						JBCH1036a1	
		知識・技能研究Ⅱ		2						JBCH1037a1	
学外研修		国内実地研修Ⅰ		1（注2）	1～2	S/W				JBCI1038a1	
		国内実地研修Ⅱ		1（注2）	1～2	S/W				JBCI1039a1	
		海外実地研修		2（注2）	1～2	S/W				JBCI1040a1	
		海外語学研修Ⅰ		2（注2）	1～2	S/W				JBCI1041a1	
		海外語学研修Ⅱ		2（注2）	1～2	S/W				JBCI1042a1	
		海外語学研修Ⅲ		2（注2）	1～2	S/W				JBCI2043a1	
卒業に必要な最低修得単位数											
ライフデザイン学科			4	6	合計 10 単位						

（注１）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ２単位付与する。
（注２）運用については、別に定める。

●「専門教育科目」について

短期大学部では 2 年間で専門的な学修を修めなくてはならないので、「専門教育科目」は、各学科の教育目的に即して、1 セメスター次から独自の学修内容が組み込まれ体系的に構成されたカリキュラムが展開されます。その学科において中心となる科目は、必修、あるいは選択必修としています。なお、必修科目および選択必修科目は、かならず配当されたセメスターで修得するようにしてください。取得できなかった場合には、卒業が延期となる可能性がありますので、とくに注意してください。

また学科によっては、ある講義を履修する際の条件（これを「履修要件」といいます）として、特定の科目を修得していなくてはならない場合があります。また、学外実習を行う場合に履修要件として、いくつかの講義科目を履修しておかなくてはならない場合もあります。これらの「専門教育科目」を履修する上での規則については、各学科によって違いがありますので、「授業科目の編成および単位数」をよく読んでおいてください。

●保育科

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

保育科は、聖徳太子の仏教精神をもとにした仏教保育の理念と方法を体得し、人間性豊かで慈愛に満ち、受容性と共感性に富む保育実践力の基本を身につけた保育者養成を目的とします。グローバルな視点が必要な現代社会における保育者の役割を自覚し、仏教保育の理念を理解したうえで、子どもや保育に関する基礎的・基本的な知識の理解と、適切な思考・判断・技術に基づいた保育実践力を身につけることを目指します。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の 3 点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 慈愛に満ちた保育者として保育現場で活躍できる人格形成
仏教保育の理念と方法を体得し、受容性と共感性に富む慈愛に満ちた保育の実践者として、子どもの成長と共に自らの人格形成を目指すことができる。

② 保育者として幅広い教養と専門的・実践的な知識および表現・技術の獲得
保育や子どもとそれらを取り巻く社会情勢に関心をもち、保育技術の向上や新たな知識の獲得に意欲的に取り組み、保育や幼児教育、福祉、また子どもや子育てに関する知識を理解し、子どものあそび・表現活動にかかわる基礎的な技術力を身につけるとともに保育現場における適切な表現・援助の方法を体得している。

③ 自己表現力・コミュニケーション能力および課題解決能力の修得
保育現場で起こる課題に対して、適切な判断を下すことができ、コミュニケーション能力を発揮して臨機応変に保育を展開することができる。さらに、自らの保育実践を省みて新たな課題を設定することができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

[教育課程の編成、教育内容]

保育科は、幼稚園教諭２種免許状および保育士資格の取得を基本的な考えとします。「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」を中心に、保育の本質を捉え、仏教保育の理念に基づいた子ども観や保育観を基礎とした専門的な実践力を

身につけることができるように、系統的に分類した６つの科目群について、基礎・基本から応用・発展へ、また、確実な知識・技術の修得から課題解決力を培う探求型の学修態度の育成へと、確実に保育実践力を自ら身につけていくことができるように、各専門科目を年次配置します。

⑴　保育の本質や意義、保育制度や歴史、保育者の役割に関する科目群には、「保育者論」「保育原理」「教育原理（制度的事項等を含む）」「社会福祉」などの科目を配置。

⑵　心理学に基づいた子どもの発達や家庭支援の基礎理論に関する科目群には、「保育の心理学Ⅰ」「子どもの保健」「子ども家庭支援論」「在宅保育」などの科目を配置。

⑶　保育内容（領域別の理論と実践）・方法に関する科目群には、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「子育て支援」などの科目を配置。

⑷　保育に必要な表現技術・基礎技能を身につけるための科目群には、「音楽Ⅰ～Ⅳ」「図画工作Ⅰ・Ⅱ」「小児体育Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置。

⑸　学外実習での課題解決に関する科目群には、事前・事後指導を含む学外実習などの科目を配置。

⑹　仏教精神を核に、慈愛に満ち、現代の保育課題に対応できる保育者を育てるための本学独自の科目群には、「仏教保育論」「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」「保育探究演習」などの科目を配置。

［教育方法］

⑴　具体的な保育事例や ICT の活用を通して、保育への興味や関心を高め、専門的な知識の理解力や課題把握・解決力が身につくような授業を実施します。

- 基礎知識や理論に関する科目については、聞く力・書く力を大切にし、授業規律の徹底を図ります。
- 理論や技術の応用や発展を目指す科目については、グループワーク等を通して協調性を育みながら、話す力や問題解決能力が身につくような授業を実施します。

⑵　個人差の大きいピアノ演奏能力については、大学入学前から「ピアノ初心者向け基礎講座」を開催します。入学後も個人指導を行います。

⑶　異学年交流や地域の保育現場と連携したアクティブ・ラーニングによる教育を実施します。保育実践力を身に付ける意欲を高め、慈愛に満ちた保育者としての態度を培うことができるよう、保育科全教員がティームティーチング制で指導にあたり、学生の学びを推進します。

［学修成果の評価方法］

⑴　教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

⑵　上記に示した教育課程における学修成果の評価については、各科目の特性に合わせて、筆記試験や実技試験、課題の提出やレポート作成による多様な評価方法により、基礎的な聞く力や書く力等の学修態度も含めて評価します。

⑶　慈愛に満ちた保育者としての資質・態度を身につけるために、授業への出席回数はもとより、グループワークや発表などへの参加度、グループで作成するワークシートも評価のひとつとして取り入れます。

⑷　ピアノ技術力については、個人差が大きいため、ルーブリックによる評価を行います。

⑸　保育科の核となる「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」では、毎回の授業で作成するワークシートと各セメスターの最後にまとめるレポートによって構成される学修ポートフォリオによる評価をセメスターごとに行います。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

保育科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

(1) 保育や子どもに対する学びへの興味・関心が高く、慈愛に満ち、将来、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）となる意志が明確なこと

〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕

(2) 将来、保育現場で、子どもの援助だけではなく、子育て支援等における保護者への支援の基礎となるコミュニケーション能力や自己表現力を、仲間と協調して高めようとする姿勢のあること

〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕

(3) 保育現場で要求される保育技術、特にピアノ演奏についての能力の獲得意欲のあること

〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能、表現力、主体性・多様性・協働性〕

(4) 高校生活全般を通して自分の知的好奇心を育てながら、高等学校で学ぶ基礎学力（特に国語）および音楽に対する基本的な知識を身につけていること

〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能、主体性・多様性・協働性〕

保育科専門教育科目　セメスター別学習テーマ

学年	1年		2年	
セメスター	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
学習テーマ	子ども・保育と出会う	子ども・保育を知る	子ども・保育にかかわる	保育者のたまごになる
保育の本質や意義、保育制度や歴史、保育者の役割に関する科目群	保育原理 社会福祉	保育者論 教育原理 （制度的事項等を含む） 子ども家庭福祉	社会的養護Ⅰ	子ども家庭支援論
子どもの発達、家庭支援の基礎理論に関する科目群	保育の心理学Ⅰ	子どもの保健	子どもの食と栄養 子ども理解の理論と方法（教育相談を含む）	子ども家庭支援の心理学
保育内容・方法に関する科目群	幼児教育課程総論 保育内容・環境	保育内容・言葉 乳児保育Ⅰ 乳児と人間関係 幼児と表現	保育内容総論 保育内容・健康 保育内容・表現 乳児保育Ⅱ 特別支援教育 子どもの健康と安全 幼児と健康（R5年度生） 幼児と環境（R5年度生） 幼児と言葉（R5年度生）	教育の方法・技術 社会的養護Ⅱ 保育内容・人間関係 保育内容・表現（総合） 児童文化 子育て支援 在宅保育
保育の表現技術・基礎技能を身につけるための科目群	音楽Ⅰ 音楽Ⅲ 小児体育Ⅰ 図画工作Ⅰ	音楽理論 音楽Ⅱ 音楽Ⅳ 小児体育Ⅱ 図画工作Ⅱ	音楽Ⅴ 国語（R4年度生） 算数（R4年度生） 教育実習指導（ピアノ） 保育教科演習（R5年度生）	生活
学外実習	教育実習指導Ⅰ（幼稚園）	教育実習Ⅰ（幼稚園） 保育実習指導Ⅰ（保育所・施設） 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	教育実習指導Ⅱ（幼稚園） 教育実習Ⅱ（幼稚園） 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習指導Ⅲ（施設） 保育実習Ⅲ（施設）	
教職実践演習				保育・教職実践演習（幼稚園）
ＩＢＵ独自の科目	保育実践演習Ⅰ 仏教保育論	保育実践演習Ⅱ	保育実践演習Ⅲ 保育探究演習	保育実践演習Ⅳ

●保育科　専門教育科目編成表

※単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.81 ～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	単位数 保育士	配当セメスター	開講学期	主要授業科目	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	X1000	仏教保育論	2			○	1～2	S	○	◎	○	○	JCEA1001a0	保育科の専門教育科目は他学部・他学科の学生が履修することはできない。
	X1005	保育者論	②			○	1～2	W	○	○	◎		JCEA1002a0	
	X1010	教育原理（制度的事項等を含む）			②	○	1～2	W		○	◎	○	JCEA1003a0	
	X1015	保育原理	2			○	1～2	S	○	◎	○	○	JCEA1004a0	
	X1020	特別支援教育			②	○	3～4	S		○	◎	○	JCEA2005a0	
	X1025	幼児教育課程総論			②	○	1～2	S			◎		JCEA1006a0	
	X1030	保育の心理学Ⅰ	②			○	1～2	S	○		◎		JCEA1007a0	
	X1040	教育の方法・技術			②		3～4	W			◎	○	JCEA2008a0	
	X1045	子ども理解の理論と方法（教育相談を含む）			②	○	3～4	S			◎		JCEA2009a0	
	X1050	子ども家庭福祉			2	○	1～2	W			◎	○	JCEA1010a0	
	X1055	社会福祉			2	○	1～2	S			◎	○	JCEA1011a0	
	X1060	子育て支援			1	○	3～4	W			◎		JCEA2012a0	
	X1065	社会的養護Ⅰ			2	○	3～4	S			◎		JCEA1013a0	
	X1070	子ども家庭支援の心理学			2	○	3～4	W			◎		JCEA2014a0	
	X1075	子どもの保健	2			○	1～2	W	○		◎		JCEA1015a0	
	X1080	子どもの食と栄養	2			○	3～4	S	○		◎	○	JCEA2016a0	
	X1085	子ども家庭支援論	2			○	3～4	W	○		◎	○	JCEA2017a0	
	X108A	幼児と健康			①		3～4	W			◎	○	JCEA2066a0	
	X108B	幼児と人間関係			①		1～2	W			◎	○	JCEA1067a0	
	X108C	幼児と環境			①		3～4	W			◎	○	JCEA2068a0	
	X108D	幼児と言葉			①		3～4	W			◎	○	JCEA2069a0	
	X108E	幼児と表現			①		1～2	W			◎	○	JCEA1070a0	
	X1090	保育内容総論			2	○	3～4	S			◎	○	JCEA1018a0	
	X1095	保育内容・健康			②	○	3～4	S		○	◎	○	JCEA1019a0	
	X1100	保育内容・人間関係			②	○	3～4	W		○	○	◎	JCEA1020a0	
	X1105	保育内容・環境			②	○	1～2	S			◎	○	JCEA1021a0	
	X1110	保育内容・言葉			②	○	1～2	W			◎	○	JCEA1022a0	
	X1115	保育内容・表現			②	○	3～4	S		○	◎	○	JCEA1023a0	
	X1120	保育内容・表現（総合）			②	△	3～4	W		○	◎	○	JCEA2024a0	
	X1125	子どもの健康と安全			1	○	3～4	S			◎	○	JCEA2025a0	
	X1130	乳児保育Ⅰ			2	○	1～2	W			◎	○	JCEA1026a0	
	X1135	乳児保育Ⅱ			1	○	3～4	S			◎	○	JCEA2027a0	
	X1140	社会的養護Ⅱ			1	○	3～4	W			◎	○	JCEA2028a0	
	X1145	在宅保育			2	△	3～4	W			◎	○	JCEA2029a0	
	X1150	児童文化	2			○	3～4	W	○	○	○	◎	JCEA2030a0	
	X1155	音楽理論	2			○	1～2	W	○		◎	○	JCEA1031a0	

●保育科　専門教育科目編成表

※単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.81 ～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	単位数 保育士	配当セメスター	開講学期	主要授業科目	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	X1160	音楽Ⅰ（器楽）		2	①	○	1～2	S/W	○	○	◎	○	JCEA1032a0	
	X1165	音楽Ⅱ（器楽）			①	△	1～2	W	○	○	◎	○	JCEA2033a0	
	X1170	音楽Ⅲ（声楽・鑑賞）			1	△	1～2	S	○	○	◎	○	JCEA1034a0	
	X1175	音楽Ⅳ（声楽・鑑賞）			1	○	1～2	W	○	○	◎	○	JCEA2035a0	
	X1180	音楽Ⅴ（総合）			1	△	3～4	R7 年度開講せず		○	○	◎	JCEA2036a0	
	X1185	小児体育Ⅰ	①			○	1～2	S	○	○	◎	○	JCEA1037a0	
	X1190	小児体育Ⅱ			①	△	1～2	W		○	○	◎	JCEA2038a0	
	X1195	図画工作Ⅰ	①			○	1～2	S	○	○	◎	○	JCEA1039a0	
	X1200	図画工作Ⅱ			①	△	1～2	W		○	◎	○	JCEA2040a0	
	X1216	保育教科演習			2		3～4	S		○	◎	○	JCEA2071a0	
	X1220	保育実践演習Ⅰ	1				1～2	S	○	○	○	◎	JCEA1044a0	
	X1225	保育実践演習Ⅱ	1				1～2	W	○	○	○	◎	JCEA1045a0	
	X1230	保育実践演習Ⅲ	1				3～4	S	○	◎	○	○	JCEA2046a0	
	X1235	保育実践演習Ⅳ	1				3～4	W	○	◎	○	○	JCEA3047a0	
	X1240	保育探究演習（野外活動）		1	1		3～4	S	○	○	◎	○	JCEA3048a0	
	X1245	保育探究演習（多文化保育）			1		3～4	S	○	○	◎	○	JCEA3049a0	
	X1250	保育探究演習（特別支援保育）			1		3～4	S	○	○	◎	○	JCEA3050a0	
	X1255	保育探究演習（保育の自然科学）			1		3～4	S	○	○	◎	○	JCEA3051a0	
	X1260	保育探究演習（音楽アンサンブル）			1		3～4	R7 年度開講せず	○	○	◎	○	JCEA3052a0	
	X1265	保育探究演習（造形アート）			1		3～4	S	○	○	◎	○	JCEA3053a0	
	X1270	教育実習指導Ⅰ（幼稚園）			①		1～2	S		○	◎	○	JCEA1054a0	
	X1275	教育実習Ⅰ（幼稚園）			②		1～2	W	○	○	◎	○	JCEA1055a0	
	X1280	教育実習指導Ⅱ（幼稚園）			①		3～4	S		○	○	◎	JCEA2056a0	
	X1285	教育実習Ⅱ（幼稚園）			②		3～4	S	○	○	○	◎	JCEA2057a0	
	X1290	保育実習指導Ⅰ（保育所・施設）			2	○	1～2	W		○	◎	○	JCEA1058a0	
	X1295	保育実習Ⅰ（保育所）			2	○	1～2	W	○	○	◎	○	JCEA1059a0	
	X1300	保育実習Ⅰ（施設）			2	○	1～2	W	○	○	◎	○	JCEA1060a0	
	X1305	保育実習指導Ⅱ（保育所）			1	㋑	3～4	S		○	◎	○	JCEA2061a0	
	X1310	保育実習Ⅱ（保育所）			2	㋐	3～4	S	○	○	◎	○	JCEA2062a0	
	X1315	保育実習指導Ⅲ（施設）			1	㋑	3～4	S		○	◎	○	JCEA2063a0	
	X1320	保育実習Ⅲ（施設）			2	㋐	3～4	S	○	○	◎	○	JCEA2064a0	
	X1325	保育・教職実践演習（幼稚園）			②	○	3～4	W		○	○	◎	JCEA2065a0	※（注）
卒業に必要な最低修得単位数			27		19		合計 46 単位							

保育士資格（p.89 ～保育士資格取得のための科目一覧を参照）

○　：必修

△　：選択

㋐㋑：選択必修　㋐より 2 単位・㋑より 1 単位

共通教育科目「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」のいずれかと「英語Ⅰ・Ⅱ」・「スポーツⅠ」・「体育講義」は必修

※（注）教育実習指導Ⅱは、講義と教育実習指導ピアノを両方履修すること。

保育科 履修系統図

※カリキュラムポリシー（CP）は P.65・66 を参照してください。

	身につけるべき能力	1 年次（1 セメスター）	1 年次（2 セメスター）	2 年次（3 セメスター）	2 年次（4 セメスター）
①	慈愛に満ちた保育者として保育現場で活躍できる人格形成 仏教保育の理念と方法を体得し、受容性と共感性に富む慈愛に満ちた保育の実践者として、子どもの成長と共に自らの人格形成を目指すことができる。	仏教保育論	保育者論	保育実践演習Ⅲ	保育実践演習Ⅳ
②	保育者として幅広い教養と専門的・実践的な知識および表現・技術の獲得 保育や子どもとそれらを取り巻く社会状勢に関心をもち、保育技術の向上や新たな知識の獲得に意欲的に取り組み、保育や幼児教育、福祉、また子どもや子育てに関する知識を理解し、子どものあそび・表現活動にかかわる基礎的な技術力を身につけるとともに保育現場における適切な表現・援助の方法を体得する。	保育原理 幼児教育課程総論 社会福祉 保育の心理学Ⅰ 保育内容・環境 音楽Ⅰ（器楽） 音楽Ⅲ（声楽・鑑賞） 小児体育Ⅰ 図画工作Ⅰ 教育実習指導Ⅰ（幼稚園）	教育原理（制度的事項等を含む） 子ども家庭福祉 子どもの保健 乳児保育Ⅰ 保育内容・言葉 幼児と人間関係 幼児と表現 音楽理論 音楽Ⅱ（器楽） 音楽Ⅳ（声楽・鑑賞） 小児体育Ⅱ 図画工作Ⅱ 教育実習Ⅰ（幼稚園） 保育実習指導Ⅰ（保育所・施設） 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	特別支援教育 子ども理解の理論と方法（教育相談を含む） 社会的養護Ⅰ 子どもの食と栄養 子どもの健康と安全 乳児保育Ⅱ 保育内容総論 保育内容・健康 保育内容・表現 幼児と健康 幼児と環境 幼児と言葉 保育教科演習 教育実習指導Ⅱ（幼稚園） 教育実習Ⅱ（幼稚園） 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習指導Ⅲ（施設） 保育実習Ⅲ（施設）	教育の方法・技術 社会的養護Ⅱ 子育て支援 子ども家庭支援論 子ども家庭支援の心理学 在宅保育 保育内容・人間関係 保育内容・表現（総合） 児童文化
③	自己表現力・コミュニケーション能力及び課題解決能力の修得 保育現場で起こる課題に対して、適切な判断を下すことができ、コミュニケーション能力を発揮して臨機応変に保育を展開することができる。さらに、自らの保育実践を省みて新たな課題を設定することができる。	保育実践演習Ⅰ	保育実践演習Ⅱ	保育探究演習（野外活動） 保育探究演習（多文化保育） 保育探究演習（特別支援保育） 保育探究演習（保育の自然科学） 保育探究演習（音楽アンサンブル） 保育探究演習（造形アート） ※音楽Ⅴ（総合）、国語を除く	保育・教職実践演習（幼稚園）

●ライフデザイン学科

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

ライフデザイン学科では、建学の理念である聖徳太子の仏教精神とそれに基づく学園訓の見地より誠実・礼儀・健康を心に留め、豊かな教養と実務的な専門性を備えた、グローバルに活躍できるビジネスパーソンを育成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の３点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 建学の精神に根ざした人格形成
聖徳太子の仏教精神を理解し、和の心を持つ人格形成修養を基に、社会に貢献できるビジネスパーソンとしての能力が培われている。

② キャリアプランを自ら描く能力の修得
社会状況に関心を持ち、積極的にチャレンジし、８つのフィールドと24のユニット科目での学びにより、新たな資格を取得している。更に、卒業後、生涯にわたるライフプランとキャリアプランを自らデザインし、描くことができる。

③ 社会で求められるビジネスパーソンとしての基礎力の修得
基礎学力をはじめとし、フィールド・ユニットでの専門知識・技能、社会人基礎力を修得している。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

[教育課程の編成、教育内容]

ライフデザイン学科は、知識・技能を活用しながら学びの視野を広げ、問題を解決する力（ジェネリックスキル）と資格取得をとおして各分野の学びを深める力（スペシャリスト）の育成を基本的な考えとしています。教育課程の編成と実施については、建学の理念を土壌に、基幹科目として「ライフデザインゼミナールⅠ～Ⅳ」「キャリアの基礎Ⅰ・Ⅱ」「キャリアデザイニング」「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を配し、社会で求められる基礎学力やデータ処理能力を身につけます。その上で、専門科目として『ビジネス・ICT』『医療事務』『フード』『ファッション』『インテリア』『トータルビューティ』『ブライダル』『グローバルカルチャー』の８フィールドの各科目を開講し理論的な知識を学び、実践的な実習・演習によって知識・技術を定着させ、さらに各種資格取得で学びを深めます。また同時に、地域連携活動を主としたプロジェクト型学習で知識・技能を活かし広げる教育を実施します。

⑴ ビジネス・ICTフィールドの科目群は、社会で働く心構えを始めとして、さまざまなビジネス環境で求められる仕事の基本を学びます。ICT・IoT・AIなどについての知識・技能を深め、必要な情報やデータを的確に集め活用する能力を養います。

⑵ 医療事務フィールドの科目群は、医療事務や医師事務作業補助者の知識や良好な人間関係を築く方法について学びます。

⑶ フードフィールドの科目群は、食品の栄養や調理法、食空間の演出、行事食を通した食文化などについて学びます。また、実習では料理や製菓の楽しさを知り、技術を身につけ、健康を支える食生活を実践する力を養います。

⑷ ファッションフィールドの科目群は、健康で快適な衣生活を営むための素材学や衛生学の知識を身につけます。また、個性を表現するための感性を養い、パターン製図やソーイングなど基本的な衣服製作の技術を身につけます。

⑸ インテリアフィールドの科目群は、生活の中にある雑貨や家具などのインテリアについて学び、空間をイメージしてデザインする力を養います。また、色彩についての基礎的知識を学び、コーディ

ネートする技術を身につけます。

⑹ トータルビューティフィールドの科目群は、健康で美しい身体を作るための肌や爪の生理学を学びます。また、メイクやネイルの技術を実習・演習を通して身につけます。

⑺ ブライダルフィールドの科目群は、婚礼の歴史や慣習などについて学び、プランニングや司会法などブライダル業界で必要なスキルを身につけます。また、ブライダルフラワーの演出技術を学びます。

⑻ グローバルカルチャーフィールドの科目群は、外国語（韓国語・英語）の基本的な会話力を身につけます。また、グローバルな視点で異文化について学び、一方で、茶道を通して日本の伝統文化について理解を深めます。

［教育方法］

⑴ 基幹科目である「ライフデザインゼミナールⅠ～Ⅳ」「キャリアの基礎Ⅰ・Ⅱ」「キャリアデザイニング」「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」では、2 年間をかけて、社会で求められる基礎的な学力やデータ処理能力などを段階的に身につけます。

⑵ 『ビジネス・ICT』『医療事務』『フード』『ファッション』『インテリア』『トータルビューティ』『ブライダル』『グローバルカルチャー』の 8 つのフィールドで展開する専門科目では、セメスター（半年）毎に自分の興味・関心に合わせて科目を選択し、見直しながら学修します。同じフィールドを選択することで学びを深化させ、フィールドを変更することで学びの幅を広げ、より自分にあった学修プランを作り主体的な学びを促します。

⑶ 講義科目では、理論的な知識を学び、実習・演習科目では、実践的に知識・技術を定着させます。そして、学びの集大成として、プロジェクト型学習への参加や各種資格取得を目指します。

［学修成果の評価方法］

⑴ 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

⑵ 科目の特色に応じて定期試験、小テスト、課題提出などにより評価します。アクティブ・ラーニングとして行うグループワークや発表などの学修態度や意欲も含め、総合的に評価します。

⑶ 実習・演習では、実践での学修態度を重視して評価します。制作した作品や課題について、制作マップや実習ノートなど完成に至るまでの過程や、制作発表時のプレゼンテーションボードなども含め、総合的に評価します。

⑷ 各種資格の取得は、学修の目標、意欲、成果として位置付け、評価します。

⑸ プロジェクト型学習を通した地域連携活動への参加は、学習の意欲、実践力の成果として位置付け、評価します。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

ライフデザイン学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

⑴ 豊かな教養と専門性を備え、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンになることを目指すこと
〔求める要素：思考力・判断力、表現力〕

⑵ 自らのライフプランとキャリアプランを描くため、自分の将来像や仕事のイメージ創り、適職探しに興味を持つこと 〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

⑶ 仕事に必要なビジネス関連知識を修得し、各種資格取得を目指すこと 〔求める要素：知識・技能〕

⑷ コミュニケーション能力を高め、物事に積極的にチャレンジする熱意のあること
〔求める要素：関心・意欲・態度〕

⑸ 高等学校等で学ぶ、基礎的な国語力と情報処理能力を身につけていること
〔求める要素：知識・技能〕

ライフデザイン学科　ユニット

フィールド	ユニット	科目名	セメスター
学科共通		ライフデザインゼミナールⅠ（ライフデザイン概論）	1
		ライフデザインゼミナールⅡ（キャリアプランニング）	2
		ライフデザインゼミナールⅢ	3
		ライフデザインゼミナールⅣ	4
		キャリアの基礎Ⅰ	1
		キャリアの基礎Ⅱ	2
		LD 研（ライフデザイン実践演習）	2
ビジネス・ICT	ビジネスⅠ	ビジネス実務	1or3
		簿記演習Ⅰ	1or3
	ビジネスⅡ	コミュニケーション論	2or4
		ビジネス文書	2or4
		簿記演習Ⅱ	2or4
	ビジネスⅢ	ビジネス実務概論	2or4
		ビジネスマナー	2or4
		LD 研（サービス接遇実務演習）	1or3
	ICT Ⅰ	情報科学（ICT 概論）	1or3
		コンピュータデザイン演習	1or3
	ICT Ⅱ	情報と社会	2or4
		キャリア形成演習（プレゼンテーション）	2or4
		LD 研（情報処理特別演習）	2or4
医療事務	医療事務Ⅰ	LD 研（医療と秘書）	1or3
		LD 研（医療秘書実務）	1or3
		LD 研（医療事務）	1or3
		LD 研（医師事務作業補助者）	3
	医療事務Ⅱ	LD 研（医療秘書事務特講）	2or4
フード	フードメーキング	食生活概論	1or3
		基礎栄養学	1or3
		フードデザイン実習Ⅰ（ベーシッククッキング）	1or3
	ケーキメーキング	食品と調理	1or3
		食品の安全と衛生	1or3
		フードデザイン実習Ⅳ（スイーツクッキング）	1or3
	フードデザイン	TALK 食空間コーディネート実習	2or4
		フードデザイン実習Ⅱ（ヘルシークッキング）	2or4
		フードデザイン実習Ⅲ（パーティメニュークッキング）	2or4
		ウエルネスクッキング実習	4

フィールド	ユニット	科目名	セメスター
ファッション	ファッションデザインⅠ	アパレル材料論	1or3
		アパレル設計論	1or3
		アパレル CAD 演習	1or3
		ファッションデザイン実習Ⅰ（ソーイング）	1or3
		LD 研（きもの実習：ゆかたソーイング・着付け）	1or3
	ファッションデザインⅡ	ファッションデザイン実習Ⅱ（ドレスメーキング）	2or4
		LD 研（スタイル画）	2or4
		アパレル衛生論	2or4
	ファッションビジネス	ファッションビジネス論	2or4
		LD 研（ファッション販売論）	2or4
		LD 件（ショップディスプレイ演習）	2or4
インテリア	インテリアデザインⅠ	インテリアデザイン論	1or3
		リビングスタイル概論	1or3
		インテリア CAD 演習	1or3
		インテリアデザイン実習Ⅰ	1or3
	インテリアデザインⅡ	インテリア・家具計画	2or4
		商空間デザイン演習	2or4
		インテリアデザイン実習Ⅱ	2or4
	カラーⅠ	カラーコーディネート実習 A	1or3
		LD 研（カラーコーディネート実習エキスパート）	3
		LD 研（カラープランナー）	3
	カラーⅡ	カラーコーディネート実習 B	2or4
		LD 研（カラーセラピー演習）	4
		LD 研（パーソナルカラー）	4
トータルビューティ	ビューティⅠ	スキンケア概論	1or3
		メイクアップ実習	1or3
		LD 研（メイクセラピー演習）	1or3
	ビューティⅡ	ネイルケア概論	2or4
		ネイルケア実習	2or4
	健康	スポーツと栄養Ⅰ（ヘルシーダイエット概論）	2or4
		スポーツと栄養Ⅱ（ヘルシーダイエット演習）	2or4
		LD 研（メンタルカウンセリング概論）	4
ブライダル	ブライダルⅠ	ブライダルデザイン	2or4
		LD 研（ブライダルフラワー）	2or4
		LD 研（イベントプランニング演習）	2or4
	ブライダルⅡ	ブライダル総論	4
		ブライダルコーディネート	4
グローバルカルチャー	観光Ⅰ	LD 研（実用英語Ⅰ）	1or3
		LD 研（茶道と日本文化）	1or3
		LD 研（ツーリズムと社会）	1or3
	観光Ⅱ	LD 研（実用英語Ⅱ）	2or4
		LD 研（ハングル・英会話入門）	2or4
		LD 研（韓国文化）	2or4

●ライフデザイン学科　専門教育科目編成表

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	主要授業科目	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	X2000	ライフデザインゼミナールⅠ（ライフデザイン概論）	1		1～2	S	○	◎	○		JLFA1001a0	ライフデザイン学科の専門教育科目は他学部・他学科の学生が履修することはできない。
	X2005	ライフデザインゼミナールⅡ（キャリアプランニング）	1		1～2	W	○	○	◎		JLFA1002a0	
	X2010	ライフデザインゼミナールⅢ（ライフデザイン探究演習Ⅰ）	1		3～4	S	○	◎	○		JLFA2003a0	
	X2015	ライフデザインゼミナールⅣ（ライフデザイン探究演習Ⅱ）	1		3～4	W	○	◎	○		JLFA2004a0	
	X2020	キャリアの基礎Ⅰ	2		1～2	S/W	○			◎	JLFA1005a0	
	X2025	キャリアの基礎Ⅱ	2		1～2	S/W	○			◎	JLFA1006a0	
	X2030	ビジネス文書		2	1～2	W			○	◎	JLFA2007a0	
	X2035	ビジネスマナー		2	1～2	W			○	◎	JLFA2008a0	
	X2040	ビジネス実務概論		2	1～2	W	○		○	◎	JLFA2009a0	
	X2045	コミュニケーション論		2	1～2	W				◎	JLFA2010a0	
	X2050	経営学概論		2	1～2	R7年度開講せず			◎	○	JLFA1011a0	
	X2055	マーケティング論		2	1～2	R7年度開講せず			◎	○	JLFA1012a0	
	X2061	ビジネス実務		2	1～2	S	○		○	◎	JLFA1013a0	
	X2070	簿記演習Ⅰ		2	1～2	S			◎	○	JLFA1014a0	
	X2075	簿記演習Ⅱ		2	1～2	W			◎	○	JLFA2015a0	
	X2080	キャリア形成演習（プレゼンテーション）		2	1～2	W			○	◎	JLFA2016a0	
	X2085	情報と社会		2	1～2	R7年度開講せず			○	◎	JLFA3017a0	
	X2090	情報科学（ICT概論）		2	1～2	S			○	◎	JLFA2018a0	
	X2095	基礎栄養学		2	1～2	S	○		○	◎	JLFA1019a0	
	X2100	アパレル材料論		2	1～2	S			○	◎	JLFA1020a0	
	X2105	アパレル設計論		2	1～2	S			○	◎	JLFA1021a0	
	X2106	アパレル衛生論		2	1～2	R7年度開講せず			○	◎	JLFA1022a0	
	X2110	ファッションビジネス論		2	1～2	W			◎	○	JLFA1023a0	
	X2115	スポーツと栄養Ⅰ（ヘルシーダイエット概論）		2	1～2	W	○		◎	○	JLFA2024a0	
	X2120	スポーツと栄養Ⅱ（ヘルシーダイエット演習）		2	1～2	W			◎	○	JLFA1025a0	
	X2125	食品と調理		2	1～2	S	○		○	◎	JLFA1026a0	
	X2130	食品の安全と衛生		2	1～2	S			○	◎	JLFA1027a0	
	X2135	食生活概論		2	1～2	S			○	◎	JLFA3028a0	
	X2140	リビングスタイル概論		2	1～2	S			○	◎	JLFA3029a0	
	X2145	インテリアデザイン論		2	1～2	S	○		◎		JLFA1030a0	
	X2150	商空間デザイン演習		2	1～2	W	○		○	◎	JLFA2031a0	
	X2155	インテリア・家具計画		2	1～2	W			○	◎	JLFA2032a0	
	X2160	ファッションデザイン実習Ⅰ（ソーイング）		2	1～2	S	○		○	◎	JLFA1033a0	
	X2165	ファッションデザイン実習Ⅱ（ドレスメーキング）		2	1～2	W			◎		JLFA2034a0	
	X2170	フードデザイン実習Ⅰ（ベーシッククッキング）		2	1～2	S			○	◎	JLFA1035a0	
	X2175	フードデザイン実習Ⅱ（ヘルシークッキング）		2	1～2	W			○	◎	JLFA2036a0	
	X2180	フードデザイン実習Ⅲ（パーティメニュークッキング）		2	1～2	W	○		◎	○	JLFA3037a0	
	X2185	フードデザイン実習Ⅳ（スイーツクッキング）		2	1～2	S			◎	○	JLFA1038a0	

●ライフデザイン学科　専門教育科目編成表

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当 セメスター	開講学期	主要授業科目	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	X2190	インテリアデザイン実習Ⅰ（インテリア基礎）		2	1～2	S	○		○	◎	JLFA1039a0	
	X2195	インテリアデザイン実習Ⅱ（インテリアモデリング）		2	1～2	W			○	◎	JLFA2040a0	
	X2200	ウェルネスクッキング実習		2	3～4	W			◎	○	JLFA2041a0	
	X2205	アパレルＣＡＤ演習		2	1～2	R7年度開講せず			○	◎	JLFA1042a0	
	X2215	カラーコーディネート実習Ａ		2	1～2	S	○		○	◎	JLFA1043a0	
	X2220	カラーコーディネート実習Ｂ		2	1～2	W	○		◎	○	JLFA2044a0	
	X2225	TALK 食空間コーディネート実習		2	1～2	W	○		◎	○	JLFA3045a0	
	X2230	インテリアＣＡＤ演習		2	1～2	S			○	◎	JLFA2046a0	
	X2231	コンピュータデザイン演習		2	1～2	S	○		○	◎	JLFA1047a0	
	X2240	ブライダル総論		2	3～4	W	○		◎		JLFA3048a0	
	X2245	ブライダルコーディネート		2	3～4	W			◎		JLFA2049a0	
	X2250	ブライダルデザイン		2	1～2	W	○		◎	○	JLFA1050a0	
	X2255	スキンケア概論		2	1～2	S	○		◎	○	JLFA1051a0	
	X2260	メイクアップ実習		2	1～2	S			◎		JLFA3052a0	
	X2265	ネイルケア概論		2	1～2	W	○		◎	○	JLFA1053a0	
	X2270	ネイルケア実習		2	1～2	W			◎		JLFA2054a0	
		ライフデザイン研究		2	1～2							
	X2318	〈ツーリズムと社会〉		2	1～2	S			◎	○	JLFA1055a0	
	X2283	〈医療秘書実務〉		2	1～2	S			◎		JLFA1056a0	
	X2284	〈医療事務〉		2	1～2	S	○		◎		JLFA1057a0	
	X2286	〈医療と秘書〉		2	1～2	S			◎		JLFA1058a0	
	X2287	〈ブライダルフラワー〉		2	1～2	W	○		◎	○	JLFA2059a0	
	X2288	〈メンタルカウンセリング概論〉		2	3～4	W			◎	○	JLFA2060a0	
	X2293	〈スタイル画〉		2	1～2	W	○		◎		JLFA1061a0	
	X2294	〈イベントプランニング演習〉		2	1～2	W				◎	JLFA1062a0	
	X2319	〈実用英語Ⅰ〉		2	1～2	S	○		○	◎	JLFA1063a0	
	X2320	〈実用英語Ⅱ〉		2	1～2	W			○	◎	JLFA2064a0	
	X2322	〈茶道と日本文化〉		2	1～2	S	○		○	◎	JLFA1065a0	
	X2300	〈カラープランナー〉		2	3～4	S			◎	○	JLFA2067a0	
	X2301	〈きもの実習（ゆかたソーイング・着付け）〉		2	1～2	S			◎	○	JLFA1068a0	
	X2302	〈医師事務作業補助者〉		2	3～4	S	○		◎	○	JLFA3069a0	
	X2304	〈ファッション販売論〉		2	1～2	W	○		◎	○	JLFA1070a0	
	X2323	〈カラーコーディネート実習（エキスパート）〉		2	3～4	S			◎	○	JLFA2071a0	
	X2306	〈医療秘書事務特講〉		2	1～2	W	○		◎		JLFA3072a0	
	X2307	〈メイクセラピー演習〉		2	1～2	S			◎	○	JLFA2073a0	
	X2308	〈情報処理特別演習〉		2	1～2	W			○	◎	JLFA2074a0	
	X2325	〈サービス接遇実務演習〉		2	1～2	W			◎	◎	JLFA3078a0	
	X2310	〈カラーセラピー演習〉		2	3～4	W			◎	○	JLFA1076a0	

●ライフデザイン学科　専門教育科目編成表

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当 セメスター	開講学期	主要授業科目	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	X2324	〈パーソナルカラー〉		2	3～4	W			○	◎	JLFA3077a0	
	X2317	〈ライフデザイン実践演習〉		2	1～2	W	○		◎	○	JLFA3080a0	
	X2326	〈ハングル・韓国文化〉		2	1～2	W	○		○	◎	JLFA1081a0	
	X2327	〈ファッション文化論〉		2	1～2	W			◎	○	JLFA1082a0	
	X2328	〈生活とデザイン〉		2	1～2	S			◎	○	JLFA1083a0	
	X2329	〈ポップカルチャー論〉		2	1～2	W			◎	○	JLFA1084a0	
卒業に必要な最低修得単位数			8	38								

ライフデザイン学科 履修系統図

※カリキュラムポリシー（CP）はP.71・72を参照してください。

	身につけるべき能力	1年次		2年次	
①	建学の精神に根差した人格形成 聖徳太子の仏教精神を理解し、和の心を持つ人格形成修養を基に、社会に貢献できるビジネスパーソンとしての能力が培われている。	ライフデザインゼミナールⅠ	ライフデザインゼミナールⅡ ライフデザイン研究 〈ライフデザイン実践演習〉	ライフデザインゼミナールⅢ	ライフデザインゼミナールⅣ
②	キャリアプランを自ら描く能力の修得 社会状況に関心を持ち、積極的にチャレンジし、8つのフィールドと24のユニット科目での学びにより、新たな資格を取得している。更に、卒業後、生涯にわたるライフプランとキャリアプランを自らデザインし、描くことができる。	ライフデザイン研究 〈医療と秘書〉 ライフデザイン研究 〈医療秘書実務〉 ライフデザイン研究 〈医療事務〉	ライフデザイン研究 〈医療秘書事務特講〉	ライフデザイン研究 〈医師事務作業補助者〉	
			カラーコーディネート実習B	ライフデザイン研究 〈カラーコーディネート実習（エキスパート）〉 ライフデザイン研究 〈カラープランナー〉 ライフデザイン研究 〈カラーセラピー演習〉	
		簿記演習Ⅰ 経営学概論 マーケティング論	簿記演習Ⅱ		
		フードデザイン実習Ⅳ （スイーツクッキング）	フードデザイン実習Ⅲ （パーティメニュークッキング） TALK食空間コーディネート実習		ウェルネスクッキング実習
		ライフデザイン研究 〈きもの実習（ゆかたソーイング・着付け）〉	ファッションビジネス論 ファッションデザイン実習Ⅱ （ドレスメーキング） アパレルコンピュータ演習 ライフデザイン研究 〈ファッション販売論〉 ライフデザイン研究 〈スタイル画〉 ライフデザイン研究 〈ファッション文化論〉 ライフデザイン研究 〈ポップカルチャー論〉		
		インテリアデザイン論	インテリアコンピュータ演習 ライフデザイン研究 〈生活とデザイン〉		
		スキンケア概論 メイクアップ実習 ライフデザイン研究 〈メイクセラピー演習〉	ネイルケア概論 ネイルケア実習 スポーツと栄養Ⅰ （ヘルシーダイエット概論） スポーツと栄養Ⅱ （ヘルシーダイエット演習）		ライフデザイン研究 〈メンタルカウンセリング概論〉
		ライフデザイン研究 〈ツーリズムと社会〉	ブライダルデザイン ライフデザイン研究 〈ブライダルフラワー〉		ブライダル総論 ブライダルコーディネート
③	社会で求められるビジネスパーソンとしての基礎力の修得 基礎学力をはじめとし、フィールド・ユニットでの専門知識・技能、社会人基礎力を修得している。	キャリアの基礎Ⅰ	キャリアの基礎Ⅱ		
		カラーコーデティネート実習A			ライフデザイン研究 〈パーソナルカラー〉
		ビジネス実務 情報科学（ICT概論） コンピュータデザイン演習	ビジネス文書 ビジネスマナー ビジネス実務概論 コミュニケーション論 キャリア形成演習 （プレゼンテーション） 情報と社会 ライフデザイン研究 〈サービス接遇実務演習〉 ライフデザイン研究 〈情報処理特別演習〉		
		基礎栄養学 食品と調理 食品の安全と衛生 食生活概論 フードデザイン実習Ⅰ （ベーシッククッキング）	フードデザイン実習Ⅱ （ヘルシークッキング）		
		アパレル材料論 アパレル設計論 ファッションデザイン実習Ⅰ （ソーイング）	アパレル衛生論 アパレルCAD演習		
		リビングスタイル概論 インテリアデザイン実習Ⅰ （インテリア基礎） インテリアCAD演習	商空間デザイン演習 インテリア・家具計画 インテリアデザイン実習Ⅱ （インテリアモデリング）		
		ライフデザイン研究 〈実用英語Ⅰ〉 ライフデザイン研究 〈茶道と日本文化〉	ライフデザイン研究 〈実用英語Ⅱ〉 ライフデザイン研究 〈イベントプランニング演習〉 ライフデザイン研究 〈ハングル・韓国文化〉		

＊2学年以上にわたる配当セメスターの科目については、前の学年に配置している。
＊学年に関係なく履修し、身につけるべき能力を修得する制度（フィールド・ユニット制）を取っている。

●重ねて履修できない科目一覧表

※下記太枠内の科目は重ねて２科目以上履修できません。各自、所属学科の科目を履修すること。

学部	授　業　科　目	種別･学科
大	異文化コミュニケーション論	社会
大	異文化理解	共通
大	異文化理解	日本
大	異文化理解	国際
大	異文化理解	英小
大	英語学	国際
大	英語学特論Ⅰ・Ⅱ	英小
大	英語学概説	国際
大	英語学概説	教小
大	英語学概説	英小
大	英文法Ⅰ	国際
大	英文法Ⅰ	教小
大	英文法Ⅰ	英小
大	英文法Ⅱ	国際
大	英文法Ⅱ	教小
大	英文法Ⅱ	英小
大	英語音声学	国際
大	英語音声学	教小
大	英語音声学	英小
大	家族社会学	社会
大	家族社会学	人健
大	子どもと家族・社会	教育
大	教職論	教育
大	教職論	教職
大	教育原論	教職
大	教育原論	教育
短	教育原理（制度的事項等を含む）	保育
大	教育心理学	教職
大	教育心理学	教育
大	教育制度論	教職
大	教育制度論	教育
大	特別支援教育	教職
大	特別支援教育	教育
短	特別支援教育	保育
大	教育課程総論（中・高・養）	教職
大	教育課程総論（小・中・高・養）	教育
大	道徳教育の理論と方法（中・養）	教職
大	道徳教育の理論と方法（小・中・養）	教育
大	特別活動･総合的な学習時間の理論と方法(中高養)	教職
大	特別活動･総合的な学習時間の理論と方法(小中高養)	教育
大	教育の方法・技術（中・高・養）	教職
大	教育の方法・技術（幼･小･中･高･養）	教育
短	教育の方法・技術	保育
大	生徒指導論（進路指導を含む）（中･高）	教職
大	生徒指導論（進路指導を含む）（小･中･高）	教育
大	教育相談の理論と方法（中･高･養）	教職
大	教育相談の理論と方法（小･中･高･養）	教育
大	教職実践演習（中・高）	教職
大	教職実践演習（教諭）	教育
大	ベーシックコミュニケーションⅠ・Ⅱ	国際
大	ベーシックコミュニケーションⅠ	教小
大	ベーシックコミュニケーションⅠ	英小
大	ベーシックコミュニケーションⅢ・Ⅳ	国際
大	ベーシックコミュニケーションⅡ	教小
大	ベーシックコミュニケーションⅡ	英小
大	ベーシックコミュニケーションⅤ・Ⅵ	国際
大	ベーシックコミュニケーションⅢ	教小
大	ベーシックコミュニケーションⅢ	英小
大	ベーシックコミュニケーションⅦ・Ⅷ	国際
大	ベーシックコミュニケーションⅣ	教小
大	ベーシックコミュニケーションⅣ	英小

学部	授　業　科　目	種別･学科
短	アドバンストコミュニケーション	共通
大	アドバンストコミュニケーションⅠ	教小
大	アドバンストコミュニケーションⅠ	英小
大短	児童福祉論	教養
大短	児童福祉論	共通
大	児童・家庭福祉	人健
大	子ども家庭福祉	教幼
短	子ども家庭福祉	保育
大	社会学概論	社会
大	社会学概論	人健
大	社会政策論	社会
大	社会政策	経営
大短	心理学Ⅰ・Ⅱ	教養
大短	心理学Ⅰ・Ⅱ	共通
大	心理学概論	社会
大	心理学概論	人健
大	地域社会学	社会
大	地域社会学	人健
大	経営学基礎Ⅰ・Ⅱ	経営
短	経営学概論	ライフ
大短	法学入門	教養
大短	法学入門	共通
大	法学（国際法を含む）	社会
大短	哲学入門	教養
大短	哲学入門	共通
大	哲学概論	社会
大	ビジネス実務概論	経営
短	ビジネス実務概論	ライフ
大	キャリア演習Ⅲ	経営
短	ビジネス文書	ライフ
大	マーケティング論	社会
大	マーケティングⅠ	経営
短	マーケティング論	ライフ
大	社会調査法	社会
大	社会福祉調査の基礎	人健
大短	障害者福祉	共通
大	障害者福祉	人健
大	国際経済論	社会
大	国際経済学	国際
大	国際経済学	人健
大	カウンセリング方法論	社会
大	カウンセリング方法論	人健
大	カウンセリング理論	社会
大	カウンセリング理論	人健
大	簿記Ⅰ・Ⅱ	経営
短	簿記演習Ⅰ・Ⅱ	ライフ
大	人的資源管理論	人健
大	人的資源管理論	経営
大	ジェンダーの社会学	共通
大	ジェンダー論	社会
大	情報社会の法と倫理（リテラシー含む）	共通
大	情報文化論（メディアリテラシーを含む）	日本
大	メディア文化論	社会
大	マクロ経済学	国際
大	マクロ経済学	経営
大	ミクロ経済学	国際
大	ミクロ経済学	経営
大	コンテンツ産業論	社会
大	コンテンツ産業論	経営
大	地域歴史文化演習（キャリア・プロジェクト研究）	共通
大	あきない実践研究Ⅰ	経営
大	地域活性化演習Ⅲ（キャリア･プロジェクト研究）	共通
大	あきない実践研究Ⅱ	経営

（次ページに続く）

（前ページより続く）

学部	授　業　科　目	種別・学科
大	産業組織心理学	社会
大	経営心理学	経営
大	旅行産業論	日本
大	旅行ビジネス論	経営
大	ファッションビジネス論	経営
短	ファッションビジネス論	ライフ
大	国際問題論	国際
大	国際問題論	社会
大	国際ビジネス論	国際
大	国際ビジネス論	社会
大	国際ビジネス論	経営
大	国際政治学	国際
大	国際政治論	社会
大	情報特別演習Ⅰ	国際
大	情報処理実践演習Ⅰ	社会
大	情報特別演習Ⅱ	国際
大	情報処理実践演習Ⅱ	社会
大	ビジネス英語Ⅰ	国際
大	ビジネス英語基礎	経営
大	ビジネス英語Ⅱ	国際
大	ビジネス英語応用	経営
大	日本思想史	日本
大	日本思想史	社会
大	パフォーマンス実践演習	日本
大	パフォーマンス演習	教小
大	パフォーマンス演習	教幼
大	パフォーマンス演習	教英
大	パフォーマンス演習	教健
大	日本史概論	日本
大	日本史概説Ⅰ・Ⅱ	社会
大	英語圏文化概説	国際
大	英語圏文化概説	教小
大	英語圏文化概説	英小
大	英語文学概説	教小
大	英語文学概説	英小
大	英語文学Ⅰ（英文学）	教小
大	英語文学Ⅰ（英文学）	英小
大	英語文学Ⅱ（米文学）	教小
大	英語文学Ⅱ（米文学）	英小
大	世界英語の文化圏Ⅰ	教小
大	世界英語の文化圏Ⅰ	英小
大	世界英語の文化圏Ⅱ	教小
大	世界英語の文化圏Ⅱ	英小
大	中等英語科教育法Ⅰ	教小
大	中等英語科教育法Ⅰ	英小
大	中等英語科教育法Ⅱ	教小
大	中等英語科教育法Ⅱ	英小
大	中等英語科教育法Ⅲ	教小
大	中等英語科教育法Ⅲ	英小
大	中等英語科教育法Ⅳ	教小
大	中等英語科教育法Ⅳ	英小
大	教育実習指導（英語）	教小
大	教育実習指導（英語）	英小
大	教育実習Ⅰ（英語）	教小
大	教育実習Ⅰ（英語）	英小
大	教育実習Ⅱ（英語）	教小
大	教育実習Ⅱ（英語）	英小
大	幼児教育課程総論	教小
大	幼児教育課程総論	教幼
短	幼児教育課程総論	保育
大	保育方法論	教小
大	保育方法論	教幼

学部	授　業　科　目	種別・学科
大	幼児理解（教育相談を含む）	教小
大	幼児理解（教育相談を含む）	教幼
大	保育内容総論	教小
大	保育内容総論	教幼
短	保育内容総論	保育
大	保育内容の理論と方法（健康）	教小
大	保育内容の理論と方法（健康）	教幼
大	保育内容の理論と方法（人間関係）	教小
大	保育内容の理論と方法（人間関係）	教幼
大	保育内容の理論と方法（環境）	教小
大	保育内容の理論と方法（環境）	教幼
大	保育内容の理論と方法（言葉）	教小
大	保育内容の理論と方法（言葉）	教幼
大	保育内容の理論と方法（表現活動・音楽）	教小
大	保育内容の理論と方法（表現活動・音楽）	教幼
大	保育内容の理論と方法（表現活動・造形）	教小
大	保育内容の理論と方法（表現活動・造形）	教幼
大	幼児と環境	教学
大	幼児と環境	教幼
短	幼児と環境	保育
大	幼児と健康	教学
大	幼児と健康	教幼
短	幼児と健康	保育
大	幼児と人間関係	教学
大	幼児と人間関係	教幼
短	幼児と人間関係	保育
大	幼児と表現Ⅰ	教学
大	幼児と表現Ⅰ	教幼
大	幼児と表現Ⅱ	教学
大	幼児と表現Ⅱ	教幼
大	博物館概論	日本
大	博物館概論	社会
大	生涯学習概論	日本
大	生涯学習概論	社会
大	博物館展示論	日本
大	博物館展示論	社会
大	博物館資料論	日本
大	博物館資料論	社会
大	博物館教育論	日本
大	博物館教育論	社会
大	博物館経営論	日本
大	博物館経営論	社会
大	博物館資料保存論	日本
大	博物館資料保存論	社会
大	博物館情報・メディア論	日本
大	博物館情報・メディア論	社会
大	博物館実習Ａ・Ｂ・Ｃ	日本
大	博物館実習Ａ・Ｂ・Ｃ	社会
大	臨床心理学	社会
大	臨床心理学	人健
大	アジア文化概説	日本
大	アジア文化概説	国際
大	アジア文化概説	社会
大	日中交流史	日本
大	日中交流史	国際
大	日中交流史	社会
大	日中比較文化論	日本
大	日中比較文化論	国際
大	日中比較文化論	社会
大	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	教職
大	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼少中高養）	教育

※社会学部人間福祉学科・教育学部・看護学部・短期大学部の専門教育科目は、他学部・他学科の学生が履修することはできない。

教職に関する科目の履修について
〈保育科〉　保育科の学生で教免を希望する者は、保育科で開設されている教科・教職科目を履修すること。

各種免許・資格

教員免許状取得のための基礎資格と教育職員免許法上の最低修得単位数について …… 82

教員免許状の申請について …… 83

本学で取得可能な教育職員免許状（以下「教員免許状」という）・資格等一覧 …… 84

幼稚園教諭二種免許状の課程（保育科）…… 85
── 科目表、実習参加要件、履修カルテ、教員免許状、その他などについて

保育士資格（保育科）…… 90
── 科目表、実習参加要件、保育実習・教育実習予定、その他などについて

社会福祉主事任用資格（保育科・ライフデザイン学科）…… 96
── 科目表、その他などについて

上級秘書士（メディカル秘書）（ライフデザイン学科）…… 98
── 科目表、その他などについて

レクリエーション・インストラクター（保育科）…… 99
── 科目表、その他などについて

認定ベビーシッター（保育科）…… 100

ビジネス実務士（ライフデザイン学科）…… 101

教員免許状取得のための基礎資格と教育職員免許法上の最低修得単位数について

●基礎資格

短期大学士の学位を有すること。

〈幼稚園教諭二種免許状〉

教育職員免許法上の最低修得単位数				
領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目
12 単位	6 単位	4 単位	7 単位	2 単位

（合計：31 単位）

※上記修得単位数と別に、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 8 単位の修得が必要である。

教員免許状の申請について

教員免許状は、教育職員免許法に定められた単位を修得し、短期大学部を卒業した学生が、各都道府県教育委員会に申請することにより授与されます。いずれの教育委員会から授与される教員免許状も全国共通で使用できます。

教員免許状の申請方法は、①一括申請と②個人申請があります。

①一括申請

本学が窓口となり、当該年度の教員免許状取得見込者を取りまとめて手続きを行う申請方法です。本学は、大阪府教育委員会に申請をしています。一括申請を行わなければ、卒業時に教員免許状を得ることはできません。

一括申請対象者は、以下の全ての項目を満たす学生です。

- 在学生で、申請年度 3 月に卒業見込者
- 本学が定めた申請期間内に手続きをした者
- 教育職員免許法第 5 条に定める所要資格及び本学が定める教員免許状取得に必要な最低修得単位数を修得した者

②個人申請

一括申請を行わなかった学生、一括申請の対象外となった学生及び卒業後に科目等履修生などで教員免許取得条件を満たした学生が、卒業後、個人で行う申請方法です。個人申請は、居住地の都道府県教育委員会へ所定の手続きをもって申請します。都道府県ごとに申請方法、申請書類等が異なるため、各申請者において申請される教育委員会に問い合わせてください。

本学で取得可能な免許・資格等一覧

本学では、所定の授業科目を履修することにより、下表の●印の免許・資格を取得することができます。履修にあたっては、免許・資格ごとに要件等が定められていますので、注意してください。

各免許・資格の取得に関しては、該当ページの詳細内容を確認してください。

	学　科	
	保　育	ライフ
幼稚園教諭二種免許状	●	
保育士資格	●	
社会福祉主事任用資格	●	●
上級秘書士（メディカル秘書）		●
レクリエーション・インストラクター	●	
認定ベビーシッター	●	
ビジネス実務士		●

幼稚園教諭二種免許状の課程（保育科）

●履修上の注意

保育科の学生は、以下の科目を修得して卒業し、都道府県の教育委員会に申請を行なうことで、「幼稚園教諭二種免許状」を取得することができます。

領域及び保育内容の指導法に関する科目	12 単位
教育の基礎的理解等に関する科目	17 単位
大学が独自に設定する科目	2 単位
「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6」に定められている科目	8 単位
免許取得に必要な最低修得単位数	39 単位

※　大学が独自に設定する科目は各区分の余剰単位で充当

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次		備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○		
体育	スポーツⅠ	1			○		
	スポーツⅡ	1			○		
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○		
	英語Ⅱ	1			○		
情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○		Ⅰ か Ⅱ、いずれか 1 科目を履修すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○		
最低修得単位数合計		8					

●教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位	配当年次		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	1 年	2 年	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育原理（制度的事項等を含む）	2	○		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	保育者論	2	○		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	保育の心理学Ⅰ	2	○		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2		○	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	幼児教育課程総論	2	○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法・技術	2		○	
	幼児理解の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	子ども理解の理論と方法（教育相談を含む）	2		○	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導Ⅰ（幼稚園）	1	○		
		教育実習指導Ⅱ（幼稚園）	1		○	
		教育実習Ⅰ（幼稚園）	2	○		
		教育実習Ⅱ（幼稚園）	2		○	
	教職実践演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	2		○	
修得単位数合計			22			

履修の際の注意事項
1. 幼稚園二種免許状を取得する者は、「教育実習指導Ⅰ・Ⅱ」と「教育実習Ⅰ・Ⅱ」の４科目を必修とする
2. 「保育・教職実践演習（幼稚園）」を履修するためには１セメスター時から「履修カルテ」を作成しなければならない
3. 教育実習参加要件に注意して履修すること

●領域及び保育内容の指導法に関する科目対応表

科目区分		各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位	配当年次		備考
				必修	1年	2年	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健　康	幼児と健康	1		○	
		人間関係	幼児と人間関係	1	○		
		環　境	幼児と環境	1		○	
		言　葉	幼児と言葉	1		○	
		表　現	幼児と表現	1	○		
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容・健康	2		○	
			保育内容・人間関係	2		○	
			保育内容・環境	2	○		
			保育内容・言葉	2	○		
			保育内容・表現	2		○	
			保育内容・表現（総合）	2		○	
修得単位数合計				17			

●教育実習参加の要件

上記「教育の基礎的理解に関する科目等」の中には、学外での教育実習が含まれます。

- 実習参加時期は、p.94・95 を参照してください。
- 1年次10月に実施する「教育実習Ⅰ（幼稚園）」には、次の参加要件を満たさないと参加できません。
  ① 1セメスターを終了していること。
  ②「和の精神Ⅰ」1科目1単位を修得していること。
  ③「教育実習指導Ⅰ（幼稚園）」を履修し、担当教員の許可を得ていること。
  ④「音楽Ⅰ（器楽）」を履修し、担当教員の許可を得ていること。
  ⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。
- 2年次6月に実施する「教育実習Ⅱ（幼稚園）」には、次の参加要件を満たさないと参加できません。
  ① 2セメスターを終了していること。
  ② 参加する年度の前年度までに、次の科目を修得していること。

教養教育科目※1 基礎教育科目※2	和の精神Ⅰ	1単位
	和の精神Ⅱ	1単位
専門教育科目	保育原理	2科目4単位以上
	保育の心理学Ⅰ	
	保育者論	
卒業に必要となる修得単位数が上記4科目を含んで、35単位以上		

※1　令和7年度入学生　　※2　令和6年度入学生

  ③「音楽Ⅰ（器楽）」および「音楽Ⅱ（器楽）」の2科目を履修し、担当教員の許可を得ていること。
  ④「教育実習指導Ⅱ（幼稚園）」を履修し、担当教員の許可を得ていること。
  ⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。
- 教育実習について質問がある場合は、教職教育推進センターまで来てください。
- 実習先は前年度に学生本人が依頼して決定します（自治体によって例外あり）。依頼方法等についてはガイダンスで説明します。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先には健康診断書を提出する場合があります。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。
- 実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
- 実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。

●教職課程履修者に対する連絡

教職課程履修者への連絡はすべて IBU.net で行いますので、十分に注意してください。
※履修及び修得すべき科目・単位は各自で必ず確認すること。

●学外実習に参加するための心得

学外実習は要件を満たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている幼稚園等の現場で多大な迷惑をかけながら、実習させていただくのです。教育実習を行うにあたっては、将来実際に教職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

●「履修カルテ」について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、4 セメスター時に開講される「保育・教職実践演習（幼稚園）」の授業を受けるまでに、各自で 1 年次から「履修カルテ」を作成することが義務付けられています。「履修カルテ」とは、教職課程を履修する学生が、授業や学外活動等において、何を学んだのかを振り返り記録するとともに、今後どのような学修が必要かを考える為の手がかりにしてもらうためのものです。

それをもとに「保育・教職実践演習（幼稚園）」では、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたかを確認します。

「履修カルテ」が作成されていない場合や、「履修カルテ」に記入漏れがある場合、4 セメスター時に「保育・教職実践演習（幼稚園）」を履修できないこともあります。

●「履修カルテ」記入の仕方

入学後オリエンテーションにて説明を受け、IBU.net で 3 項目について記入します。

⑴　保育者（幼稚園教諭）志望理由と動機の記入　1 セメ終了時
　　はじめに保育者（幼稚園教諭）を志望する理由と動機について記入（100 字程度）
⑵　教職関連科目の履修状況の記入　2 セメ、3 セメ
　　履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目等」について振り返り「履修カルテ」の項目ごとに自己評価を記入
⑶　教育実習の状況の記入　2 セメ、3 セメ
　　教育実習を通じて学んだこと等を記入（100 字程度）

※ IBU.net での「履修カルテ」の記入は、指定された文字数内・時間内（30 分）で各自入力し、終了時に「 」をクリックしてください。
（文字数を越えた場合、時間を過ぎた場合や「 」をクリックしていない場合は更新できません）

●教育職員免許状申請、証明書について

1. 幼稚園教諭　教育職員免許状申請

「幼稚園教諭」として教職に就くには、都道府県の教育委員会へ申請を行い、「教育職員免許状」を取得する必要があります。大学で取りまとめて大阪府教育委員会に申請します。申請方法は、4 セメスター時に説明します。

教育職員免許状取得に必要な単位を修得し、申請を行った学生には、学位授与式で「教育職員免許状」を配付します。

※教育職員免許状の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。
※大学の指定した期日までに申請しなかった場合は、個人で各都道府県の教育委員会に申請しなければ免許状を取得することができません。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

3 セメスター以降、証明書発行サービスで「免許状取得見込証明書」を発行してください。

3. 教育職員免許状の紛失等について

「教育職員免許状」を紛失した場合は、大阪府教育委員会へ問い合わせてください。大学で教育職員免許状の再発行はできません。

保育士資格（保育科）

●履修上の注意

保育科の学生は、以下の科目を修得して卒業し、「保育士登録」を行なうことで、「保育士資格」を取得することができます。

保育士資格　教養科目	11 単位
保育士資格　必修科目	58 単位
保育士資格　選択必修科目	9 単位
資格取得に必要な単位数合計	78 単位

●保育士資格　教養科目

令和 7 年度入学生

法令上の教科目				本学開講科目	授業形態	（※ 2）履修単位数	備　考
系列	教　科　目	授業形態	（※ 1）設置単位数				
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6 以上	仏教概説	講義	2	
				現代社会と人権Ⅰ	講義	2	ⅠかⅡ、いずれか 1 科目を履修すること
				現代社会と人権Ⅱ	講義	2	
				情報処理演習Ⅰ	演習	2	ⅠかⅡ、いずれか 1 科目を履修すること
				情報処理演習Ⅱ	演習	2	
	外国語	演習	2 以上	英語Ⅰ	演習	1	
				英語Ⅱ	演習	1	
	体　育	講義	1	体育講義	講義	2	
		実技	1	スポーツⅠ	実技	1	
合　　計		10 単位以上				11 単位	

※ 1　設置単位数は、法令上短大で開設しなければならない単位数。

※ 2　履修単位数は、実際に修得しなければならない単位数。保育士資格取得を希望する者は、p. 91 ～ 92 までの科目を各表に従い、修得しなければならない。

令和 6 年度以前入学生

法令上の教科目				本学開講科目	授業形態	（※ 2）履修単位数	備　考
系列	教　科　目	授業形態	（※ 1）設置単位数				
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6 以上	仏教概説	講義	2	
				現代社会と人権	講義	2	
				情報処理演習Ⅰ	演習	2	ⅠかⅡ、いずれか 1 科目を履修すること
				情報処理演習Ⅱ	演習	2	
	外国語	演習	2 以上	英語Ⅰ	演習	1	
				英語Ⅱ	演習	1	
	体　育	講義	1	体育講義	講義	2	
		実技	1	スポーツⅠ	実技	1	
合　　計		10 単位以上				11 単位	

※ 1　設置単位数は、法令上短大で開設しなければならない単位数。

※ 2　履修単位数は、実際に修得しなければならない単位数。保育士資格取得を希望する者は、p. 91 ～ 92 までの科目を各表に従い、修得しなければならない。

●保育士資格　必修科目

法令上の教科目				本学開講科目	授業形態	(※2)履修単位数	備考
系列	教科目	授業形態	(※1)設置単位数			計	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2	
	教育原理	講義	2	教育原理（制度的事項等を含む）	講義	2	
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2	
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育の心理学Ⅰ	講義	2	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2	
	子どもの理解と援助	演習	1	子ども理解の理論と方法（教育相談を含む）	演習	2	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	幼児教育課程総論	講義	2	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2	
	保育内容演習	演習	5	保育内容・健康	演習	2	
				保育内容・人間関係	演習	2	
				保育内容・環境	演習	2	
				保育内容・言葉	演習	2	
				保育内容・表現	演習	2	
	保育内容の理解と方法	演習	4	音楽Ⅰ（器楽）	演習	1	
				図画工作Ⅰ	演習	1	
				小児体育Ⅰ	演習	1	
				音楽Ⅳ（声楽・鑑賞）	演習	1	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1	
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	1	
	障害児保育	演習	2	特別支援教育	演習	2	
	社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	1	
	子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	1	
保育実習	保育実習	実習	4	保育実習Ⅰ（施設）	実習	2	
				保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ（保育所・施設）	演習	2	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習	2	
合計			51 単位			58 単位	

※ 1　設置単位数は、法令上短大で開設しなければならない単位数。

※ 2　履修単位数は、実際に修得しなければならない単位数。

※ 3　「保育・教職実践演習（幼稚園）」を履修するためには 1 セメスター時から「履修カルテ」を作成しなければならない。

●保育士資格　選択必修科目

法令上の教科目				本学開講科目	授業形態	（※２）履修単位数		備考
系列	教科目	授業形態	（※１）設置単位数			必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15単位以上	仏教保育論	講義	2		
保育の対象の理解に関する科目				在宅保育	講義		2	
保育の内容・方法に関する科目				保育内容・表現（総合）	講義		2	
				音楽理論	講義	2		
				児童文化	講義	2		
				音楽Ⅱ（器楽）	演習		1	
				音楽Ⅲ（声楽・鑑賞）	演習		1	
				音楽Ⅴ（総合）	演習		1	
				図画工作Ⅱ	演習		1	
				小児体育Ⅱ	演習		1	
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ（保育所）（※３）	実習	2	2	
				保育実習Ⅲ（施設）（※３）	実習		2	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ（保育所）（※３）	演習	1	1	
				保育実習指導Ⅲ（施設）（※３）	演習		1	
合計			18単位以上			9単位以上		

※１　設置単位数は、法令上短大で開設しなければならない単位数。

※２　履修単位数は、実際に修得しなければならない単位数。

※３　保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習指導Ⅱ（保育所）または、保育実習Ⅲ（施設）・保育実習指導Ⅲ（施設）いずれかの組み合わせで履修すること。

●保育実習参加の要件

上記必修科目と選択科目の中には、学外での保育実習が含まれます。

- 実習参加時期は、p.94・95 を参照してください。
- 保育実習ⅡまたはⅢには、次の参加要件を満たさないと参加できません。

① 2セメスター終了までに、次の科目を修得していること。

教養教育科目※1 基礎教育科目※2	和の精神Ⅰ	1単位
	和の精神Ⅱ	1単位
専門教育科目	保育原理	2科目4単位以上
	保育の心理学Ⅰ	
	保育者論	
卒業に必要となる修得単位数が上記4科目を含んで、35単位以上		

※1　令和7年度入学生　　※2　令和6年度入学生

②「音楽Ⅰ（器楽）」および「音楽Ⅱ（器楽）」の2科目を履修し、担当教員の許可を得ていること。

③ 選択した実習に該当する「保育実習指導」を履修し、担当教員の許可を得ていること。
④ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

- 保育実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。
- 「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅲ（施設）」で実習を行う社会福祉施設は、大学が実習先を決定します。
- 「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅱ（保育所）」で実習を行う保育所は、学生本人が保育所に依頼して決定します（自治体によって例外あり）。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。
- 実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
- 実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。
- 実習先には腸内細菌検査結果の提出が必要です。いずれも、「保育実習指導」で詳しく説明します。

●保育士資格取得希望者への連絡

保育士資格取得希望者への連絡はすべて IBU.net で行いますので、十分に注意してください。

●学外実習に参加するための心得

学外実習は要件を満たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている保育所・社会福祉施設の現場で多大な迷惑をかけながら、実習させていただくのです。保育実習を行うにあたっては、将来実際に保育職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

●保育士登録、証明書について

1. 保育士登録

「保育士」になるには、日本保育協会登録事務処理センターへ「保育士登録」の申請を行い、「保育士登録簿」への登録を受ける必要があります。

大学で取りまとめて申請します。申請方法は、4 セメスター時に説明します。

登録の申請を行うと、卒業後に事務処理センターより「保育士登録済通知書」「保育士証」が郵送されます。
※保育士の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

3 セメスター以降、証明書発行サービスで「資格取得見込証明書」を発行してください。

3. 卒業後の証明書発行

「保育士証」を紛失等で再発行する場合は、日本保育協会登録事務処理センターへ問い合わせてください。大学では発行できません。

●保育科　教育実習および保育実習の予定 幼稚園、保育所（園）、施設等

略称	[教Ⅰ][教Ⅱ]……教育実習Ⅰ（幼稚園）、教育実習Ⅱ（幼稚園） [保Ⅰ・保]……保育実習Ⅰ（保育所） [保Ⅰ・施]……保育実習Ⅰ（施設） [保Ⅱ]……保育実習Ⅱ（保育所） [保Ⅲ]……保育実習Ⅲ（施設）

1セメ 入学直後	第1回ガイダンス 幼稚園免許・保育士資格について [教Ⅰ] 幼稚園実習の登録手続き、「履修カルテ」の作成 [保Ⅰ] 保育所実習・施設実習の登録手続き
1セメ 4月下旬	[教Ⅰ] 実習希望園へ内諾依頼書提出、登録調査票等提出、実習申込金納入
1セメ 5月中旬	[保Ⅰ・保] 実習希望園へ内諾依頼書提出、登録調査票等提出
1セメ 6月下旬	[教Ⅰ] 実習希望園へ正式依頼書送付
1セメ 7月上旬	実習事前ガイダンス（人権教育特別講義） [教Ⅰ] 書類等配付（実習記録・成績評価表・出席表）、実習謝礼金振込
1セメ7月下旬 ～9月下旬	[教Ⅰ] 実習先とのオリエンテーション
2セメ 9月中旬	第2回ガイダンス [教Ⅱ] 幼稚園実習の登録手続き [保Ⅱ・保Ⅲ] 保育所実習・施設実習の登録手続き
2セメ 9月中旬	[保Ⅰ・保] 実習申込金納入 [保Ⅰ・施] 実習参加費納入
2セメ10月 中旬～下旬	**[教Ⅰ] 実習参加＝2週間**
2セメ 11月上旬	[教Ⅰ] 実習終了 実習記録提出（終了後2週間以内） 成績評価表・出席表の返送
2セメ11月 上旬～中旬	[保Ⅰ・保] 実習希望園へ正式依頼書提出
2セメ11月 上旬～中旬	[教Ⅱ] 実習希望園へ内諾依頼書提出、登録調査票等提出
2セメ 12月上旬	[保Ⅰ・施] 実習施設配属発表 [保Ⅰ・保] 実習謝礼金納入 [保Ⅰ・保] [保Ⅰ・施] 書類等配付（成績評価表・出席表・健康診断証明書）、腸内細菌検査
2セメ 1月上旬	[保Ⅱ又は保Ⅲ] 実習申込金納入

2 セメ 1 月上旬	［教Ⅱ］実習申込金納入、実習希望園へ正式依頼書送付
2 セメ 1 月 中旬～下旬	［保Ⅰ・保］［保Ⅰ・施］実習先とのオリエンテーション
2 セメ 1 月下旬 ～2 月中旬	**［保Ⅰ・保］実習参加＝ 2 週間**
2 セメ 2 月初旬 ～3 月下旬	**［保Ⅰ・施］実習参加＝ 10 日間**
3 セメ 4 月上旬	［保Ⅰ・保］［保Ⅰ・施］実習終了 実習記録提出 成績評価表・出席表の返送
3 セメ 4 月上旬	［保Ⅱ又はⅢ］希望種別調査 ［保Ⅱ］実習希望園へ内諾依頼書提出、登録調査票提出
3 セメ 4 月上旬	［教Ⅱ］書類等配付（実習記録・成績評価表・出席表）、実習謝礼金納入
3 セメ 5 月	［教Ⅱ］実習先とのオリエンテーション
3 セメ 5 月下旬	［保Ⅱ又はⅢ］実習希望園へ正式依頼書送付
3 セメ 6 月上旬	［保Ⅱ又はⅢ］書類等配付（成績評価表・出席表・健康診断証明書）
3 セメ 6 月	**［教Ⅱ］実習参加＝ 2 週間**
3 セメ 6 月下旬	［教Ⅱ］実習終了 実習記録提出（終了後 2 週間以内） 成績評価表・出席表の返送
3 セメ 7 月下旬 ～8 月上旬	腸内細菌検査、実習謝礼金納入 ［保Ⅱ又はⅢ］実習先とのオリエンテーション
3 セメ 8 月下旬 ～9 月上旬	**［保Ⅱ又はⅢ］実習参加＝ 2 週間　又は 10 日間**
4 セメ 10 月上旬	［保Ⅱ又はⅢ］実習終了 実習記録提出（終了後 2 週間以内） 成績評価表・出席表の返送

※学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施する。

※期間等の詳細については、学外実習のガイダンス等で連絡する。

※夏学期開講前に実施される「学生定期健康診断」を必ず受診すること。

※「履修カルテ」については、p.87 参照

社会福祉主事任用資格
（保育科・ライフデザイン学科）

●社会福祉主事任用資格とは

社会福祉主事とは、都道府県、市町村に設置される福祉事務所に置かれる職であり、生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法及び知的障害者福祉法に定める援護、育成又は更生の措置に関する事務を行うことを職務とします。

社会福祉主事に任用される資格のことを、社会福祉主事任用資格と呼び、地方自治体に採用となり、福祉事務所に配属されてはじめて意味をなす「任用資格」です。

この資格は、必要科目を修得して卒業することが条件であるため、卒業後に不足の科目を科目等履修によって補うことはできません。

●資格要件科目一覧

令和７年度入学生

社会福祉主事任用資格は社会福祉法に定められており、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目（下記の科目を参照）のうち、３科目以上を修得し、本学を卒業することで取得できます。

省令科目	本学開講科目	単位数	科目分類	備考
社会福祉概論	社会福祉概論	2	教養教育科目	
身体障害者福祉論	障害者福祉	2		
老人福祉論	老人福祉論	2		
法学	法学入門	2		
心理学	心理学Ⅰ※	4		
	心理学Ⅱ※			
児童福祉論	児童福祉論	2		
社会福祉概論	社会福祉	2	保育科専門教育科目	保育科の学生のみ履修可能
児童福祉論	子ども家庭福祉	2		
保育理論	保育原理	2		
教育学	教育原理（制度的事項等を含む）	2		

※心理学は「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」の両方を修得して１科目となります。

令和６年度以前入学生

【保育科】

種　別	本学設置授業科目名	単位／履修区分			配当年次		備　考
		必修	選択必修	選択	１年	２年	
共通教育科目	社会福祉行政	2			○		
専門教育科目	社会福祉	2			○		
	子ども家庭福祉	2			○		
	保育原理	2			○		
資格取得に必要な修得単位数		合計８単位					

【ライフデザイン学科】

種　別	本学設置授業科目名	単位／履修区分			配当年次		備　考
		必修	選択必修	選択	１年	２年	
共通教育科目	社会福祉概論	2			○		
	社会福祉行政	2			○		
	児童福祉論	2			○		
	老人福祉論	2			○		
資格取得に必要な修得単位数		合計８単位					

上級秘書士（メディカル秘書）
（ライフデザイン学科）

●上級秘書士（メディカル秘書）とは

病院・調剤薬局などで働くメディカル秘書という仕事を理解するとともに、患者受付・接遇業務、会計・カルテ・レセプトなどの医療文書作成業務、メディカルスタッフとのコミュニケーションのしかたなど、実務に即した技能を習得し、医療事務や秘書業務のスペシャリストとして活躍することができます。

「上級秘書士（メディカル秘書）」の取得については、（一財）全国大学実務教育協会の「上級秘書士資格認定規程」の定めるところに従い、単位を修得しなければなりません。また、資格取得申請には、（一財）全国大学実務教育協会が定める申請費用が必要になります。

●資格要件科目一覧

〈ライフデザイン学科〉

	本学設置授業科目名	単位		配当年次	
		必修	選択	1 年	2 年
領域1	ビジネス実務	2		○	
	サービス接遇実務演習		2	○	
	情報処理演習Ⅰ		2	○	
	情報処理演習Ⅱ		2	○	
	ビジネス文書		2	○	
	コミュニケーション論		2	○	
	キャリア形成演習（プレゼンテーション）		2	○	
領域2	医療と秘書	2		○	
	医療秘書実務	2		○	
	医療事務	2		○	
	医療秘書事務特講		2	○	
	医師事務作業補助者		2		○
領域3	キャリアデザイニング	2		○	
	ビジネス実務概論		2	○	
	ビジネスマナー		2	○	
	ライフデザインゼミナールⅠ		1	○	
	ライフデザインゼミナールⅡ		1	○	
	ライフデザインゼミナールⅢ		1		○
資格取得に必要な修得単位数		10	16	合計 26 単位以上	

レクリエーション・インストラクター
（保育科）

●レクリエーション・インストラクターとは

「レクリエーション・インストラクター」は、「レクリエーション」に興味・関心を持つ学生にとっての入門的な資格です。人と人との楽しい交流を促進するために必要な援助方法を習得することによって、多くの人たちに様々な遊びを通した楽しさの体験を提供するスキルを身につけます。特に介護福祉や社会福祉の分野に就職する学生にとって、「楽しい人間関係づくり」や「生きがい支援」のスキルは大いに仕事の上で役に立つことが期待できます。

本学は（公財）日本レクリエーション協会公認「レクリエーション・インストラクター」資格を取得できる課程認定校になっています。

従って、保育科に所属する学生は、必要条件をクリアし、申請を行えばこの資格を取得することができます。なお、２年ごとの資格更新手続きが必要で、更新費用がかかります。

●資格要件科目一覧

〈保育科〉

種　別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次		備　考
		必修	選択必修	選択	１年	２年	
教養教育科目※1 共通教育科目※2	体育講義	2			○		
専門教育科目	小児体育Ⅰ	1			○		
	小児体育Ⅱ	1			○		
	保育実習Ⅰ（保育所）	2			○		
	保育実習Ⅰ（施設）	2			○		

＋

大阪府レクリエーション協会主催等の事業参加（２回以上）※

※事業参加（支援実習）については、体育講義の中で説明します。

※１　令和７年度入学生
※２　令和６年度入学生

認定ベビーシッター（保育科）

●認定ベビーシッターとは

多様な保育ニーズが求められる中、在宅保育サービスがより社会的に認知され、高い評価を得るためには、保育に関する知識、技術はもちろんのこと、ベビーシッター独自の専門性を持つことが必要とされます。

ベビーシッターの資格認定制度は、一定の要件を満たすベビーシッターに「認定ベビーシッター」資格を付与することにより、ベビーシッターに対する一層の信頼性を高め、ベビーシッター事業の向上とベビーシッターの社会的地位の確立を図ることを目的とします。

指定校（本学）において、保育士の資格取得に必要な教科目のほかに、全国保育サービス協会が定める「在宅保育」に関する科目を修得して卒業した者は、資格申請を協会に行うことで認定証が交付されます。

ビジネス実務士
（ライフデザイン学科）

●ビジネス実務士とは

ビジネス実務士とは、ビジネス活動を総合的に理解し、その活動を効果的に行うために必要な知識・技能を習得し、経済社会で即戦力となれるビジネスプロの能力修得を目指す資格です。

「ビジネス実務士」取得のための指定科目を履修することにより、社会に出て働くときに身につけておきたい経済・経営の基本知識、職場におけるルールやマナー、対人スキル、情報処理・文書作成・企画立案といったビジネス実務に関するさまざまな知識と技能の基本を習得することができます。併せて、それを活用する実務実践力の基本とその学修力を身につけることができます。

「ビジネス実務士」の取得については、本学に 1 年以上在学し、（一財）全国大学実務教育協会の「ビジネス実務士資格認定規程」の定めるところに従い、単位を修得しなければなりません。また、資格取得申請には、（一財）全国大学実務教育協会が定める申請費用が必要になります。

●資格要件科目一覧

	本学設置授業科目名	単位		配当年次	
		必修	選択	1 年	2 年
領域1	ビジネス実務	2		○	
	ビジネス文書		2	○	
	コミュニケーション論		2	○	
領域2	ビジネス実務概論	2		○	
	情報処理演習Ⅰ		2	○	
	情報処理演習Ⅱ		2	○	
	ビジネスマナー		2	○	
	キャリア形成演習（プレゼンテーション）		2	○	
領域3	キャリアデザイニング	2		○	
	サービス接遇実務演習		2	○	
	ライフデザインゼミナールⅠ		1	○	
	ライフデザインゼミナールⅢ		1		○
資格取得に必要な修得単位数		6	4	合計 10 単位以上	

諸規程

四天王寺大学短期大学部履修規程（令和７年度入学生）
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/92_tandairisyukitei.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部単位の修得及び試験に関する規程（令和６年度入学生）
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/34_tanishiken.pdf

四天王寺大学短期大学部学位規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/37_tandaigakui.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部 GPA 制度に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/35_gpaseido.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部留学に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/39_ryugaku.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部海外語学研修に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/40_kaigaigogakukenshu.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部海外実地研修に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/41_kaigaijicchikenshu.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部国内インターンシップによる単位認定に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/42_kokunaiinternship.pdf

知識および技能審査の成果の単位認定に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/43_chishikigino.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部資格チャレンジ奨励金規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/44_shikakushorei.pdf

四天王寺大学および四天王寺大学短期大学部間での相互単位互換についての規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/45_daitangokan.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部他の大学・短期大学部との単位互換に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/46_tadaigakugokan.pdf

保育科要項
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/89_hoikuyoukou.pdf

ライフデザイン学科要項
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/90_lifedesignyoukou.pdf

令和７年度　履修要覧

発行　四天王寺大学　短期大学部
編集　教務部
住所　〒583-8501　大阪府羽曳野市学園前３丁目２－１
Tel　072-956-3181（代）

SHITENNOJI UNIVERSITY